

東京 陵 水

賀 正
平成24年 元旦
陵水会東京支部役員一同

平成二十四年度東京支部総会 七月七日(土)七夕総会として開催 同期で・クラスで・ゼミで・盛り上げよう!!

平成二十四年度支部総会の概要 弘、金子俊治、奥村淳一、高木

○開催日時・平成二十四年七月 章、田中恒男（以上一〇名）

七日(土) 午後五時～午後八時 既に昨年九月二八日、同期一

○会 場・上野精養軒 ○名が銀座に集まり、役割分担・

(台東区上野公園四一五八) 運営方法等の打ち合わせを致し

電話〇三三三八二二二二八一 ました。参加される方も年々増

○会 費・七〇〇〇円 加しており、会員の輪がますます

○記念講演・ ず拡がってきておりますが、今

「講談で語る成年後見制度」 年も昨年同様、多くの会員の皆

○講 師・神田 織音 講師 様にご参加いただけるよう土曜

○幹事一同挨拶 日開催としております。

田中 恒男(大24)

今回は昭和五十一年卒の大24 詳細の詰めは同期幹事にて鋭

四回が支部幹部の皆様のご指導 意準備中ですが、当日の席次に

とアドバイス頂きながら打ち つきまして、同期・部活・ゼ

合わせをおこなっております。 ミ等の要素を加味しながら、懇

幹事メンバーは左記のとおり 親の輪がさらに拡がるように工

ですので宜しく願います。 夫してまいりたいと思えます。

河江泰平、湧川勝巳、仙田修 尚、あらためて総会のご案内

蔵、山崎勉、高橋俊之、本田吉 状をお送りさせていただきます。また陵水会東京

目次

1面	二十四年度総会・
2面	年頭所感
2～4面	二十三年総会
4～10面	羽瀨氏講演内容
10～15面	「こんにちは」
17～18面	告別の辞
19～20面	随想(河添法橋両氏)
21～23面	ゴルフ会・散歩会・
23～24面	囲碁会
25～26面	同期会
26面	年会費納入者一覧
	奥付・広告

支部のホームページにも詳細を掲載いたしますのでご覧いただけます。

会社関係・クラブOB・ゼミOB等を通じてご連絡を取っていただき一人でも多くの会員の皆様にご参加頂き、盛大なる総会に致したく存じまので宜しくお願い申し上げます。

平成二十三年 度 東京支部総会会場風景



- ① 支部長挨拶
- ② 新入会員
- ③ 学歌斉唱
- ④ 年次幹事一同
- ⑤ 同期の人達

年頭所感

東京支部長 守谷 貞夫

明けましておめでとうございます。年頭に際し、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

このたび西坂徹雄氏より陵水会東京支部の支部長を引き継ぐことになりました守谷貞夫（大12回）です。前々宇治原支部長時代から、当会の運営に微力ながら係わって参りましたので、進むべき方向については理解しているつもりです。小梶幹事長を中心に役員の方々と一致協力、次の五項目に果敢に挑戦して行きたいと考えておりますので、会員各位のご協力をお願い致します。

一、年々参加者が増え盛会になっております支部総会の、更なる増員と内容の充実。
一、関東五県と広範囲にわたる会員のより正確な把握。
一、会員相互の交流促進、親睦の輪の拡大。

一、年会費の徴収率アップ。
一、陵水会本部への支援、協力の継続。

平成十四年度から、総会の企画、運営を同年卒回生が年度幹

事として担当する制度となり、十年を経過しました。それぞれ意欲的に取組まれ、これを契機に同期会が活発になり、総会に無関心に過ごしてきた人が、積極的に参加されるなど、成果が出ております。

またゴルフ、囲碁、グルメ、散歩等同好会も定期的に催され、交流は深まっております。他にもクラブやゼミのOB会のように力強く連綿と続いているものもあり、これらをホームペー



ージの活用により、連携して新たな展開を目指したいものです。

近年、卒業後五年前後の若い会員が、自主的に総会出席を勧誘され、特に昨年新人会員七名が出席されたことは画期的でした。

さらに、昨年、九、十一月と二度にわたって、若手会員が彦根まで出向かれ、就職懇談会、相談会に協力して来られました。

え、これはと思うことには積極的に取り組み、しかも実績を積み重ねていくことが肝要と存じます。

比較恵まれていたとはいえない状況下にある就職運動の一助となるよう支部としても助力して行きたいと考えております。

悲観論ばかり目立つ昨今、同窓生という絆を大切に、充実した生活の一助としたいと念願いたします。

平成二十三年度東京支部総会 新支部長に守谷貞夫氏(大12)就任

大会場を埋め尽くす未曾有の出席者
東京陵水人の熱意、ここに集結

平成二十三年七月九日(土)午後五時から、上野公園内の老舗レストラン「上野精養軒」において、本年度東京支部総会が会員約二百三十名の出席者を迎えて開催された。

重ねて会員各位の一層のご助言、ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

今回の開催には、大学二十三回卒業生が当番幹事として諸設営、運営に当たった。

次に支部役員・本部評議員の改選案が承認された。

司会を小梶清司幹事長(大18)が担当。西坂徹雄支部長(大9)の挨拶(別記)の後、議長に鈴木重成氏(大7)を選び総会議事審議に進んだ。

現支部長西坂徹雄氏の退任を受けて、守谷貞夫氏(大12)が就任。新しく副幹事長に田村寿夫(大12)、大八木勉(大20)、脇坂守(大21・事務局長兼務)、長井和男(大22)の諸氏が就任。

平成二十二年度事業報告並びに収支決算が、山本保副幹事長

山本保、木津勝治(大16)、柴原良昭(大17)、中村嘉秀(大18)の各氏が副幹事長を退任。本部評議員には新たに林史欣(大8)、田村寿夫(大12)、竹森二郎(大19)、大八木勉(大20)、脇坂守(大21)、長井和男(大22)の各氏が就任。西坂徹雄、吉原悟一(大9)、宮野幸雄(大11)、木津勝治、柴原良昭、中村嘉秀の各氏が退任。

支部規定の幹事会召集に当たって、電子メールを採用すること、準則に支部長経験者に顧問を委嘱する事を付加することが、提案され承認された。

この後、新副幹事長の挨拶に続き守谷新支部長が挨拶した。講演会は午後五時四十五分から開始された。

講師はマブチモーター株式会社専務取締役羽淵展世氏(大14)。演題は「高まる中国リスクと一日系企業の中国戦略」(本紙別ページ講演内容参照)として、講師が豊富な中国における経験をもとに実践的な話題を取り上げて進行した。聴衆は現今の中国問題の複雑さ、後進性について改めて認識を深めることができた。

午後六時五十分から懇親会が、近藤修当番幹事の司会によ

り開会された。「総会で同期会」のコンセプトも徹底されたテーブルの配置。又ボート部、ヨット部と言った代表的クラブには専用テーブルも置かれ一層の親睦が図られるよう工夫された。女子卒業生の姿が例年に増して目に付いた。司会から会場の奥に新しく設けた滋賀県・彦根の地産名産店の利用が呼びかけられた。

乾杯の挨拶と発声を、陵水会理事長・大森修太郎氏（大10）が行った。「母校は授業内容に

特筆すべきものが多く、やる気のあるものは益々のびる大学である」。

滋賀大学大学院教授久保英也氏が陵水奨学金や「リスクフラッシュ」のことを含めた挨拶をされた。

彦根市産業部観光振興課から彦根観光の協力を求めた挨拶があった。

その後、当番幹事の棚橋稔氏による解説で、DVDスライドの放映。懐かしい母校の写真、大きく様変わりしたキャンパスと学生の規模・内容、クラブ活動の今などが披露された。

今年度新入会員（大59）の男子六女子一の七名が自己紹介と挨拶をした。

今年度年次幹事二十三回生を代表して堀江氏が挨拶。続いて本会年次幹事の二十四回生を代表して、田中恒男氏が挨拶。

高田大樹氏（大49）リードによるエールの演出で彦根高商校歌二番まで。続いてグリークラブの三井照次氏の指揮に従って滋賀大学学歌を全員で斉唱した。

最後に中辻喜蔵氏（本21）が挨拶、手拍子も全員の手がぴたりと一致して午後八時三〇分、大成功裡に総会が終了した。

西坂徹雄東京支部長挨拶(要旨)

酷暑のなかご出席を担当幹事、役員ともども感謝する。各テーブルにも特色あり、メインテーブルに高商二十一回の皆様、団塊の世代が十名まとまっていくつか、二十歳代の若手陵水会の席。更には四年前はゼロだった女性会員の出席が今回六名で花を添えている。今回の設営に当たっては大学二十三回の当番幹事の皆さんが健闘、準備してくれました。皆さん全員がまだ現役でがんばっている。仕事もやり設営も着実にすすめる。彦根スピリットが発揮された姿と

た。そして今なお重い復興の負担を感じている。亡くなられた方、被災された方に対し心から哀悼し、お見舞いしたい。あの日はその方々にドラマがあった。これからも予想される、都下直下型地震や相模灘沖地震、東海地震などが起きたら大変なことになる。今度の機会、経験をもとに我々自身の生活をしっかりと見直さねばならない。

産業界も悲観的にみられる所もあるが、いち早く復興してきた所もあり、消費生活も次第に戻りつつある。現役時代のプラント輸入の経験で言うと、日本の現場の力、技術力にはものすごいものがある。例の放射能汚染水の汚染除去循環システムはフランスやアメリカの技術を併せた技術で進められているが、これを本場にもにして行くのは日本の現場の力である。希望的な見方で言えば、来年の今頃には素晴らしい循環システムが稼働しており、日本の力でこの世界で初めての経験を踏まえて新しい技術が生まれてくるのではないかと思っている。昨今の政治の世界の混乱は見るに耐えない状況であり、政治家のしていることに憤りを感じる。なんとか皆で力を合せて解決したい

ものである。これからは日本もよくなるべく努力をしなければならぬが、それには中国との付き合いが大きな問題である。日本の政治が中国とどう向き合うかにある。今日は四十年間にわたり業務を通して中国に携わってきたマブチモーター株式会社専務取締役羽淵展世氏にこの問題を講演頂く。大事な話だ。楽しみにしてほしい。

今日を以って私の東京支部長の任期が終わる。役員皆様を始め会員の皆様のおかげで無事順調に務めを果たす事ができた。陵水会の活動は長い駅伝競争であり、私は前任の宇治原嘉政さんからたすきをもらい、今度後任の守谷貞夫さんにたすきを渡す事になる。守谷さんは陵水会幹部として長い経験をお持ちである。社長として経営の任にある貨物用エレベーター会社の経営も順調であるとのことで、支部長の務めも十分こなされていられると思う。これから新執行部の人事提案がされると思うが、賛成して頂き応援してほしい。

今日は縦横の関係にこだわることなく充分に楽しんで欲しい。

国民に大きなショックを与え

平成二十二年度収支報告

○財産目録(単位円・以下同じ)

現金 七六、一二九
普通預金 七三九、六二二
郵便貯金 七二八、八三四
定期預金 一、〇六〇、〇〇〇
合計 二、六〇四、五八五

○貸借対照表

現金・預金 一、五四四、五八五
基本金引当預金 一、〇六〇、〇〇〇
合計 二、六〇四、五八五

【貸方】

前受金 五四六、〇〇〇
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 九九八、五八五
合計 二、六〇四、五八五

注・前受金は翌年度の年会費

【収支計算書】

○収支計算書
計 四、三六二、五九四
総会費 二、〇二三、八一四
運営費 三八〇、二四〇
印刷費 三三六、四七〇
通信費 三二八、〇九九
ホームページ費 一五六、〇〇一
編集費 一〇〇、〇〇〇
事務用品費 一、二六〇
雑費 三八、一二五
次年度繰越金 九九八、五八五
計 四、三六二、五九四

【支出の部】

計 四、三六二、五九四
総会費 二、〇二三、八一四
運営費 三八〇、二四〇
印刷費 三三六、四七〇
通信費 三二八、〇九九
ホームページ費 一五六、〇〇一
編集費 一〇〇、〇〇〇
事務用品費 一、二六〇
雑費 三八、一二五
次年度繰越金 九九八、五八五
計 四、三六二、五九四

【収入の部】

計 四、三六二、五九四

年会費収入 一、三六二、〇〇〇 編集費 一〇〇、〇〇〇
 総会会費収入一、三八二、五〇〇 交通費 一〇、〇〇〇
 寄付金収入 二一六、四九四 事務用品費 一〇、〇〇〇
 役員会会費収入三四五、〇〇〇 雑費 一〇〇、〇〇〇
 新聞広告収入 二二〇、〇〇〇 次年度繰越金 一、〇七八、五八五
 本部活動助成金収入 一三三、八〇〇

【収入の部】

雑収入 五、八五二 計 四、三四八、五八五
 前年度繰越金 六九六、九四八 年会費収入 一、四一〇、〇〇〇
 平成二十三年度収支予算書 総会会費収入一、四〇〇、〇〇〇
 【支出の部】 寄付金収入 二〇〇、〇〇〇
 計 四、三四八、五八五 新聞広告費 二〇〇、〇〇〇
 総会費 二、一〇〇、〇〇〇 本部活動助成金収入
 印刷費 四〇〇、〇〇〇 雑収入 一三五、〇〇〇
 通信費 四〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇
 ホームページ費 一五〇、〇〇〇 前年度繰越金 九九八、五八五

総会記念講演要旨

「高まる中国リスクと日系企業の中国戦略」

マブチモーター株式会社専務取締役 羽瀧展世氏(大14)

○自己紹介

私は一九六一年に滋賀大学に入學、一年留年して一九六六年に卒業しました。クラブ活動も、軟式テニス、ワンダーフォーゲルに籍を置きました。卒業後マブチに入社するまでの数年間、郷里の田舎に帰りまして、百姓をしながら、殆ど誰にも会わないで、五、六年、豚を飼っておりました。その後、まあ一生に一、二年は、人生経験のために、

サラリーマンをやっとくべきだ
 と思う、ひょうきんなきっかけから、マブチモーターに入社することにになりました。

○香港・中国で仕事を進めるに
 あたつての姿勢。姿勢(至誠) 経済合理性を貫く

入社一年の間にいきなり、ストにであつたり、いろいろなことで緊張がありました。当時は日本の特恵関税が外されたり、円高に動いたりということがあ

り、急激な変動があつた時で、いろいろな会社の中に問題があつたわけです。私自身は当時あつた香港の工場を拡大して、いわゆる自由化、通貨の日本円の自由化に備えて、貿易の拠点を日本から香港に移す企画を立て、これを仕上げてみたいと思つて、自ら香港に出張しました。爾来四〇年間、時々日本に帰つてきてますけれど、延々と香港、中国に関わつてきました。

私が香港に赴任した当時は香

たいで、ときどき怪我をしながら、夜中まで作業を続けるようなことをずっとやってきました。特に運転は免許は日本で取つていたが、運転は一度もしたことがない。中国では言葉も知らないけれど、香港の町などは全く知らない状態でやらざるをえないから、いきなり荷物だけ積んで、町中に地図を持って飛び出して、というようなことをずっとやっておりました。一番ひどい時には午後三時か四時頃出て行って、仕事が終わつたら午後八時くらい、そこから帰ろうとしたら、夜で道も暗く、あちらこちらで道に迷い、着いたら朝になっていたという経験もありました。香港は当時大変に路の悪い所で、灯りはありませんし、特に田舎ですから、三十件くらい外注をもつていて、いろいろな部品をデリバリーして、二、三日置いてそれを全部回収して、というようなことをやっていました。三件くらいあつた外注を拡大もせにやならんと三十件くらいに拡げました。自分自ら運転しての拡大です。ただ、サラリーマンは非常に楽なもんだなと思つて、冬なんかお産が始まる

生まれてきます。そうすると、夜眠れない日がしょっちゅうでしたから。こういうことをやって自分で責任を取る、ということに比べればサラリーマンは楽なもんだ、しかし非常に毎日が楽しくなつたと記憶しています。

その後、二年間くらいで香港工場も十倍くらいな規模になり、二千数百人の職員になりました。

一九八六年初頭には、中国東莞市に日系企業の第一号として進出する事になりました。当時の同市の人口は一一九万人、現在では一二〇〇万人と言われて



港マブチの従業員は僅か二百人、小さな工場でした。赴任した一

カ月も経たないうちに、私も原因があるのですけれど、一緒に行った工場長にも原因があつて、ストライキが起き、部下が相当辞めてしまいました。仕方なく、自分でトラックを運転してクーリーの仕事もし、また昼間出て夕方帰つてきて、当時の輸出用の梱包は木箱梱包、石炭箱ですね。あれの中に木箱を詰めて、それで帯封して金槌でた

私が着いた頃は、どこの道を走つても牛がいる。車はトラックが偶に走る程度。道端に水牛や豚がごろごろしている。アヒル、鶏が走っている。それはとてもなく汚い田舎道の都会でした。それが今や一二〇〇万人の大都市です。地下鉄を始め全ての交通機関があつて、最近では深圳市から広州市まで高速鉄道が開通しました。速度三八九キロです。八月一日から正式オープンする事になってます。

我々の工場はその後大連市に造りました。蘇州市にも造りました。深圳市と東莞市にだけ

も十三個所くらい工場を造り直した。そのうちの半分以上は閉鎖もしました。会社も閉鎖し、統合しました。これをどんどん繰り返しながら現在にいたっているわけです。現在は東莞市に約五工場を統合を重ねて持っています。去年は湖北省に新しい工場を開き、生産を開始しています。今年も更に一つ開設しました。同時に昨年は一万人最大の従業員を擁した深圳工場を閉鎖しましたが、閉鎖を発表した瞬間にストライキが発生しました。閉鎖の発表の仕方がまずかったですと思います。

当時広州の本多自動車ははじめ北京の松下電器、あるいは台湾系のホックスコンドなどあらゆる工場です。ストライキが発生し非常に困難な時期で、その真つ最中に我々の工場もストを起こしました。客先供給責任というものがあってこの期間のせめぎ合いに、大変な緊迫感を覚えながらスト発生と同時に工場に飛んで行きました。一般的には日本の責任者がいきなりスト現場に飛んでいくようなことは比較的ない。おそらく日本とか、香港とか後方について、現地の工場の総経理に指示を与えようと思うん

ですが、私は真つ先に飛び込んでゆきました。車が着くまでに（その当時東莞から行ったんです）車の中で考えました。この年齢になって、こんなストライキを起こしてしまつて。しかも俺の力でおさまるのか。あるいは、いつも定年の退任のことを考えておりますから、退任間際になつて、これもまた厭な話だ、と思つていました。工場に着いた途端、工場の敷地内にいた五、六千人のワーカーが大歓声を上げ、轟音に似た声がとどろき、「ウオー」と取り囲まれました。彼らにしてみれば「敵の大將を取り込んだぞ」という感じだつたと思うんです。幸いにも「殺される」ということもなく二日間

で終わりました。この二日間ぶつ続けにいろいろな指示を出しながら、徹夜です。とにかくフルに知恵を絞つて戦いました。まず全員一緒になつていゝのを分断すること。それぞれの利害に幾分の相違がありますから、一寸した点に計略を使つたこともありました。大多数が女工さんとその間に立つ人、管理職、この三者を徹底的に分断させる。他と自分達とは違ふんだと思わせるような仕組みを作る。これが上手くいっ

て、ストの潮目が変わるところ、タイミングをつかまえて、一瞬ストを収めました。私が香港に就任して直ぐの時もそうです。行った所で常にストライキに遭つています。これにはずいぶん慣れましたが、ストライキだけは本当に厭だと今でも思つています。幸いにこれまで起きたストは全て三日以内で収まっていますが、中国のいろいろな現場の経験をさせて貰つたつもりです。

こうやつて四〇年間今日までやつてきました。その間先ほどご紹介いただきました東莞市の名誉市民になつたり、日本で通商産業大臣の表彰を受けたりしました。会社では、立場上お客さんや幹部社員などと酒を飲む機会が非常に多く、私の場合は浴びるほど酒を飲んでいました。香港の場合はブランドですし、中国の場合は「バイリュウ」という白い酒でアルコール度数五十度、三度、五度、毎晩乾杯しながら何十年飲み続けてきました。幸い病気に罹らず今に至つてい

は全部体を壊してしまいました。十年過ぎくらい当地にいますと、例えば私の上司で総経理であつた方、その五代目で私の前任者、私と同じ日に赴任した工場長、別の工場長だつた方、皆さん在任中、もしくは日本に帰られてから、残念ながら七十歳までに亡くなりました。海外で十数年間勤めるといふのは、いろいろなところに負担がかか

るものだと思います、そういう意味で、ラッキーだつたらんどう、と思います。四十年間にわたつて後進国で、香港も以前そうでしたが、そこに長年居たという功績で、皆さんの推薦もあつて通産大臣の表彰を貰いました。四十年にわたつて会社や工場を経営しながら数万の人を束ねていくというのは、それなりに一筋の信念みたいなものがないとやれないと思

つてきた、それだけのことで、香港ではある業者にピストルを見せられて脅かされたこともありません。中国の政府の役人と話している時も、中国の共産党はいわばとんでもない組織ですから、時にはひやつとさせられるような経験を何度もして来ました。

〇日系企業から見た中国リスク
日本で言われている「中国リスク」は、反日感情であつたり、これは歴史問題、領土問題を含めてでしょうが、あるいは労働争議であつたり、あるいは人件費の高騰や、人民元の高騰であつたりします。私はこれは全部中国が抱えている「内なる問題」から生まれてきているものと思

います。その「内なる矛盾」を爆発しないようにガスを抜いていく過程の中で、ここにあげた問題が現象となつて現れてくると思

います。中国の抱えている問題に所得格差があります。評価の問題、不良債権、一人ツ子政策、或いは民主化問題、或いは環境問題、こういった問題なんだろうと思

います。中国は社会主義国でありながら世界有数の貧富の差の大きい国です。社会主義国とは本来国民みんなの幸せをめざし

たできるだけ貧富の差の少ない国家を目指しているはずですが、現実にはそれは別の途を辿っている。また政治社会機構そのものが、汚職や裏金と深く結び付いた仕組みになっ

てきている。これは一人や二人の人間がどうのこうのという問題ではなく、国を挙げてそういう仕組みのなかに全部組み込まれているわけで、これは大変なことです。この実態が時々表に一寸出ますが、氷山の一角です。古くは北京市の市長や上海の市長が逮捕されたり、最近では重慶の公安トップが死刑になったり、深圳市の市長が死刑宣告を受けた

り、枚挙に暇なしです。最近では、クシユン・、ハンシヤオ市の副市長が死刑の判決を受けました。また元国家副主席の息子が夫婦でシドニーに二十八億円の豪邸を買い新聞の話題になりました。元副主席とは江沢民の懐刀の一人でした。

要するに中国で政府機関や国有企業の幹部にいわゆるグレーマネーと言われているお金、日本円で年間百兆円と言われている、金が渡っている。百兆円という金は日本の一般会計の国家予算よりも多い。それだけのお金が中国の銀行の幹部であった

り、政府の人間であったり、こういう人に行き渡るような仕組みが出来上がってしまっているのです。此の国にとって大変な問題となっています。

例えば三菱東京UFJの深圳支店長の話では、しょっちゅう自分の行員が引き抜かれていく。なぜですかと聞いたら、うちの給料よりも三倍から四倍も給料を出している。中国の国有企業に、四つの大きな銀行があるけれどそこへ引き抜かれていくんですよ。彼等是我々の給料よりはるかに高い給料を貰っています。表向きはそうなっていないんだと言っような話でした。

このように隠れた部分の構造がいかに大きいものかということが言えます。先の百兆円が事実かどうか知りませんが、少なくとも七十兆円以上であると言われています。人民元を低く管理する事でインフレが常に起こり易い問題があります。日本がプラザ合意によって円があがり、失われた二十年の大不況をよんだことを中国は反面教師としてきっちりとらえています。

そこで人民元の引き上げには頑なに反対しているわけです。それがインフレ問題に結び付く可能性が非常に強いのではないかと

と思われています。

今は好景気ですね。非常に見えづらいけれども、もし不動産バブルがはじけたら一挙に不良債権が表面化して経済は間違いなく破綻する。中国の不動産開発の実態はけた外れの規模で進んでいます。至る所で大規模なマンションの開発がどんどん進んでいる。あるいは一戸何億円もするような豪邸が何百戸単位でどんな都市にも出来ています。



弊社の深圳工場の十年前にいた社員、当時彼の給料はせいぜい十万円ちょっとでしたけど、いまでは中国の十大国有企業に入る企業の職員で三億円の家に住んでいます。しかし一般的には豪邸もマンションにもほとんど人は住んでいません。一戸建ての家にしても何百戸も建っているのですが、人は一人も住んでいないところがあります。みんなほかの省の政府の役人が買っている。高級マンションにしても住んでいない。理由は地元

の人が買うとばれるからです。南の豪邸だったら北の役人が、北の方の豪邸は南の役人が買うという形で売り買いがされています。売り買いはどんどんされるし、値段は上がる。しかし誰も住んでいない。この規模がものすごい。マンションが延々と

ついている。その中には何百軒の大豪邸も建っています。誰も居ません。値段だけはどんどん上がっています。しかしこれはバブルの一端です。

三十年間続いた一人っ子政策、この結果二〇一五年から労働人口が減少に転ずると言われています。昨年生まれの人口比率で言うと男女比率では、男子の比率が女子より二十パーセントアップ。しかも田舎では女子がほとんど都会に出てくるものだから。結婚が非常に難しいということになりました。そこで人身売買が何時も起きています。という噂がしょっちゅうです。一人っ子政策の生んだ人口問題は

そのうち大きな矛盾となつて出てくるでしょう。最近ではヴェトナムなどいろいろな国から若い女の子を新しい中国の勤め先にかいって募集してきて、それを田舎の嫁さんにはめ込むよう

な事件が結構山起きています。さらに反体制運動の問題、特に中国政府は、いわゆるジャスミン革命にはものすごく神経を使っています。ジャスミン革命が始まってから、一年近くたっているが一度も中国の中に情報として出たことが無い。インターネットで一瞬探そうとしても、ジャスミンの英文のJも、中国語でいう「モリファー」のモもネット上消されていて出ません。中国にとってこの事が脅威だと思っっているのです。

現在では世界一になったエネルギー消費国はまたCO2の世界一の排出国です。そこから派生する環境汚染。中国の問題抱えている問題は非常に多い。此の国はガス抜き政策の一環として、CO2の排出を抑えるとい

って、いきなり石油の値段、ガソリンの値段を上げてしまったら、ガソリンスタンドの営業を全部停止したり、簡単にやれるからです。

中国が最も重要視しているのが失業とインフレです。細心の注意を払いながらコントロールしている問題です。もしコントロールが拙く均衡状態が崩れたら、一挙に所得格差の問題や不正問題等に飛び火して、社会不

安を巻き起こす可能性を持つています。最近広州で大規模な暴動が発生しました。暴徒と化した群衆が人の住んでいない豪華マンションになだれ込んで窓ガラスをバンバン割るような破壊活動がありました。これは中国国内には報道されなかったけれど、インターネットを見たら流れていて、誰でも知っている事になりました。こういう問題を抱えながら中国は凄まじい速さで発展し続けています。

本企業としては、中国抜きで経営を、企業活動を考えることは出来ない。例えば弊社にとって中国の売り上げはすでに四十パーセントです。生産に至っては六十パーセントを中国が占めています。いかような進展を辿るにしても、中国をはじめとする依存度はこれから高まることはあっても低くなることは絶対あり得ない。どういう対処をして行くかということになるんだらうと思います。

○弊社の中国展開と戦略

弊社の簡単な歴史を見てまいりますと、一九七九年、これは

とを中国の地方政府と交渉の際に訴え、そこで大歓迎されて出て行ったわけです。今まさに中国は世界の工場から世界のマーケットに切り替わりつつあります。後三年もしないうちに東莞市と深圳市に数万人規模の工場を何箇所か造ることになりました。その間は香港マブチ工場から二百人近い人材をそれぞれの工場に送り込んで、技術面や管理面、品質面などすべての部門にわたって徹底した人材教育を実施しました。私の経営方針は極めて判り易い。簡単にそのことを表現してみます。

参加しろ、と呼びかけました。出てきたのは幹部ばかりでしたけど。これらを丸一日かけて先ほどの管理仕様に基ずいたグラフを一つづつ見ながら、逐一、目標の管理状況を全員の前で報告させて、問題点は指摘し、具体的な指示を与えながら二十年の間続けてきました。

最初は数年間にわたって管理職と技術職養成のため四階建てビルを一棟、学校に切り替え古い設備を利用して、一線に居る管理職を先生として実際の実務教育と管理教育を何年間にわたりにしてきました。それから製品開発、設備開発の工場も造り、今では品質を高め省エネ活動とか、商品開発活動とかの効率化に努めています。工場経営においては中国のバイオニア企業として多大な成功を収めてきたんじゃないかと自負を感じております。少なくともそれが日系企業や中国の企業にとって一つのモデルを示してきたんじゃないかというふうに思っています。

○今後の中国戦略

さてそれではこれからどう取り組んでいくかということですが。中国の経営には一つの大きな流れがあると思っています。一つは世界の工場から世界のマーケットに変わってゆくこと、もう一つは、中国はこれまで貿易依存型の外需から今後は内需に切り替わっていくことです。この流れにどう合わせるかということが大きな問題だと思います。数年前までは、わが社の場合八十五パーセントを中国で生産、一辺倒に頼っていました。十五パーセントが台湾やヴェトナムでした。依存度が高い、国家的リスクが高すぎるということとで中国の生産を六十パーセント、ヴェトナムの生産を四十パーセントに切り替えました。その為ヴェトナムに工場を造り、中国の工場を一部閉鎖しました。先ほど深圳の工場を閉鎖したのはこの一環です。中国がい

が有力視されています。どのような成長をするにしても、中国は今後大きな時代の流れの中で急速な対応の変化に迫られるだろうと思います。そこからいろいろな現象が生み出されるでしょうけれど、日系企業にとっては大きなチャンスであり、一方大きなリスクでもあるわけです。中国のリスクがいく

らいたら、誰でも知っている事になりました。こういう問題を抱えながら中国は凄まじい速さで発展し続けています。

後八六年に東莞市、深圳市に本格的に進出を始めました。当初は開放政策が始まったばかりで中国は非常に貧しい状態にありました。我々は先ず、中国の労働力を買うんだ、多くの企業がそこに来ることで、やがて国の経済成長が大きなマーケットを成長させていくだろう、ということを高らかに謳って、そのこ

わない、誰でも来てこの会議に

我々の場合は販売会社を持っていません。しかし、広い中国に二つしかない、上海と深圳です。これではいかにもパワーがたりないと考えています。中国で前述の通り四十パーセントを中国で売っているといっても、すべて日本から中国に行つて中国の工場で作っているお客さんとか、アメリカやヨーロッパから中国に来ている会社、もともと先進国が開いている工場、そこへ売り込んであるわけですから、実際にはコップの中身が移り変わっただけということですよ。

新しい中国のマーケットが本当の意味で広がったわけではない。こういうことでは売って行くという力にならない。工場は本社の決めた材料や部品、業者を使って、本社で言われた数値を、品質問題に気を付けてただ作っているだけです。いま日系企業の大半はそうやっています。

こんなことをして中国でモノが売れますか。何をやるにしても本社に全部お伺いを立てている。何から何まで本社の承認が得られないと動けない。本社は本社で遠くにいて地元をコントロールしてきているつもりでいるわけです。こんな経営形態では日系企業が、中国でマー



ケットを拡大することは絶対にできない。何のために中国に人材を育てて、開発会社を造り、製品開発を行つて、設備機械の出来るポイントを造つたのだと。これからは工場という工場に全部営業部門を設けると言いました。工場は一つの会社として、製品開発もやります、販売活動もやります、生産もやります、客先対応もやります、と全部責任をもつて対応します。これが会社じゃないかと思いませんか。

「工場は工場である」の考え方でマーケットのある新興国へ出ていくのは間違いと思います。

一つの会社であり、全部を自分の考えで出すとして出てゆく。台湾の「台湾マブチ」では売っているものは全部台湾マブチが開発した。お客さんも同社が開拓した。売り上げのセールスも、客先対応も自分達でやっています。

一昨年のリーマンショックでがたつと売り上げが落ちたが、それから急速に立ち上がりまして。中国での売り上げは十から二十パーセントしか向上しないが台湾マブチは一年間で対中国売り上げが一〇〇パーセント増えました。何故か。一つの会社が工場であり、販社であり、全てがスピーディに対応できたからです。本社にお伺いを立てて承認を貰ってからの形態では売り上げを伸ばすなんて出来ません。商売に繋がらないと思います。

新興国には現地完結型で、スピーディに物事を解決して客先対応できる仕組みのできた会社として出てゆくべきです。ただ工場それぞれで全部機能を持つことは非常に無駄が多いから、例えば中国事業部の形で開発の部門、設備の部門に任せる形になります。スピーディにそこで完結する会社作りが必要です。工場でなく会社作りで世界のマ

ーケットに変わってゆく中国に対応する事が必要です。しかし日本は立ち遅れるのではないかと思います。

いわゆる外需から内需への切り替えです。今まで貿易に頼っている部分が非常に多かったです。中国は内需重視に切り替わっている。以前は中西部開発ということを盛んに行っていました。これは所得格差や地域格差が大きな問題になってきたからです。開発を広め格差を薄めるためにも、外需から内需に切り替え、内部の経済を発展させることは大きな課題です。外国企業はこの課題に乗ってこなかったのですが、最近違います。リーマンショック以降中国は一挙に七十兆円の財政投融资をして、インフラを徹底的に整備しました。現在では、高速道路、高速鉄道、一般飛行場、港湾など奥の方まで完璧に整備されたと思っっています。おそらく二十世紀の最大のニューディール政策ですよ。とんでもなく様変わり状態です。外需から内需への切り替えと、中西部開発は歩調を合わせての進展、同じ路線の歩みです。

昨年江西省に新しい工場を造りました。今年も十万平米の土

株式会社トッパン NEC

サーキットソリューションズ

相談役 田川 行雄 (大9回卒)

〒108-8536 東京都港区芝浦3-19-26 トッパン芝浦ビル ☎03-5419-9700

地を買って、工場を造る予定ですが、断っておきますが、江西省が人件費が安いから出たわけじゃない。人件費はどこに出ても上がる。それよりもその地域とともに発展するんだということ。三十年前東莞市に出ました時にこの地域と一緒に発展するんだといって出ました。人件費が安いから出たのではない。この市は百二十万から千二百万人の大都市に変わりました。これは沿岸都市どこも変わりました。

かつて労働集約的な企業が海外に出てゆく時、いわゆる雁行型の経営移行をしたのですが、たしかに人件費が安いから出て行ったかもしれない。出て行った所は、台湾、ニーズ諸国であれアセアンであれ、中国であれ、人件費事情による進出で大々的に発展してきた。それらの企業も地域の発展と併せて自分達も発展してきました。賃金は出た当初に比べてすでに二十倍以上がっています。我々が東莞に一番最初に出た時は賃金は一四〇元でした。新入社員は一〇元。今は二千数百元でしょう。十数倍になっている。賃金は安いから出たわけじゃない。此の中で企業も賃金上がるように

発展してきた。江西省に出た時にも言った。「あんた方は賃金が安いなんてことは売り物にせんでくれ。」と。賃金は高くてもいい。高いくらいのは企業で吸収します。それより賃金が上がらないような魅力のない場所の方が問題だ。上がらないような魅力のない地域に誰が出てゆきますか。そこには将来はないし、人材も育たない。効率的な生産も出来ませんよ。それよりも賃金はどんどん上げてくれ、そしてその地域が発展するような都市を造って下さい。それを期待して我々が出てきている。そのために中国の経済の発展が

外需から内需に変わっているなら、我々もそれに合わせて中国も第二の発展を目指そう、と言うつもりで出てきているんですよ。そのことを訴えている。けれど人件費の幾分安いことはコスト計算に入れていきます。しかしそんなものが何時までも続くとは思っていませんし、人件費が安いから次の戦略としてこういう所に出ていくということはないと思っています。企業は天地人と言われている。天とは天の刻、タイミングです。時の流れです。地は立地条件です。人とは人の知恵。少

なくとも天の刻の流れは、そう大きな間違いはない。地の利も何も難しいことではない。以上三つの要素のうち二つはもう考えることはない。やるのは自分達が努力するだけです。人間が知恵を使って努力するだけではないんです。そんなに難しく考えないで、簡単に答えが出てくるんじゃないですか。

今、われわれの戦略は会社、工場を中西部に出して更に発展を目指すということと、中国内のマーケットにどうやって取り組んでいくかということ。残っている強い思い

○香港・中国の仕事を通じて

現地経営者として大変苦勞させられるのは正直申し上げて対本社です。現地の従業員や社員に対する努力は、本当に報われる努力。やっただけの努力のし甲斐がある。しかし一番苦勞させられるのは本社の管理職や役員との折衝です。香港マブチが香港に出てゆく時に百四十億円の現金預金がありました。本社ではこれから中国に出ていくのにこんな金は要らないといって、運用で出た配当等本社に持つていってしまったわけで、五年間でこの金が全然少なくなりました。足りないんだからといった

が通らない。五年間たつたら五百億円近い設備投資になりました。借金が二四〇億円出来ました。当時レートがよく動く時代でした。為替変動の思惑から日本円が高くなったときに、我々の借金を本社が、どういう訳か一銭も貸してくれなかった。自分達で考えろと言われまして。この二四〇億円の借金全部、三和銀行さんや東京銀行さんに借りました。金利が一五パーセントです。年間そんな金を払いながら経営をどうやって維持できるんだと、私は本社に三回も帰ってきて言いました。当時の財務担当専務と三回にわたって大喧嘩しました。「お前は本業を考えていればいいんだ。なん

のかんのとつまらぬことを考えるな、通貨を変えるなんて必要ない。」と。私は円が高くなつたからもう損はないだろうと米ドルの借金を日本円に替えると主張してやっと思いました。何が本業だと。本業とは経営にまつわる全て、金にまつわる全てのものと考えていくことじゃないか。金のことは考えなくていいなんて、そんな経営がどこの世界にあるんだ、と言いました。自分の金だつたら放つておくか。自分の金だつたら円に替

えるだろう、なぜ会社の金だつたらそれができないんだ、そこまで言っちゃってくれました。一介の課長が専務に桶突くという事は結構危険なことでした。中国で一九八九年、天安門事件の少し前に最初のストライキがおきました。私はこの時にはストライキのことは本社に一切報告しなかった。深圳工場には九千人ぐらいいました。戦場のようなストの真つ最中に本社に報告したら、ストの原因はなんだ、首謀者は誰だ、要求は何だ、

現地はどうなっているのか、政府関係者はなにをやっているのか、弁護士に相談したか、彼の意見はどうなんだ、等々つまらぬことを言ってきました。いちいち受け答えしていたら、その意味でなにも解決にならない。とにかくお客さんに供給責任があり、納期ぎりぎりまで解決するつもりがありますか、それまでの間一切本社に何も言わない。結局、三日目にたった十元の手当を出すことでけりがつきました。ストが終わったから、本社にストはもうとつとたんにものすごく怒られました。クビを覚悟していたんです

がなんとかつながりました。

私が覚えている大きな事件は、一九八九年六月六日に香港中のラジオ、ファックス、電話等に騒動の情報がじゃんじんと流れました。広州で政府軍と反政府軍がものすごい内戦をやっている。「深圳から広州に至る国道に何百台という戦車が轟音を立てて走っています。危ないですよ」と廻りが言う。「もうすぐ深圳のゲート第二、(特区と深圳を分けているゲートですが)、これがもう閉まります。危ないですよ。なにをしているんだ、早く工場を閉めて、早く早く。日本人も香港人も早く引き揚げろ」とこれまた周囲が言うのです。知人やお客さんなどからも、「なにをやっているんだ。早く逃げる。」と言ってきました。私は本当にそのような混乱状態になっているのかと、それぞれの工場に確認するよう指示をしました。第二ゲートは本当に門を閉める準備をしているのか、などと。そうしたら確認しただけだれ一人銃撃戦の音を聞いたこともないし、戦車の影を見たこともない。というわけです。しかし、もう皆震えあがっていて、とにかく帰せ、帰せです。僕の場合は香港にいたん

ですが、工場が沢山ありますから、その総工場長、営業部長、

経理部長とか日本人の主なものが僕のところに来るに血相を変えて来て、「なにをしているのだ、ことは命に関わる問題だ、あんたはそこまでの権限はないだろう」といつて責め立てます。今にも殴られんばかりですよ。「それじゃわかった。本社と相談しましょう」。「本社にも何らかの騒動についての証拠があれば、即刻閉鎖して帰りますけれども、何の証拠もないのに、お客さんに言われて、ああそうですかと行って帰ることなどできない」。本社の役員の中にもそう思う人が一人ぐらいいるだろう、と思つてこのニュースを知らせたら、部長たちは本社から即刻帰れと言われると期待しているようでした。しかし案の定、本当かどうか証拠が出たら即刻帰つていざらうと本社。それまで様子を見なさいという訳です。結局その日は夜遅くなつても何も分らない。次の日も何もなかった。けれども香港人スタッフが二百人近くいたのが、皆震えあがつてどうにもならないので、彼らを全部帰しました。でもその時から現地急仕立ての管理職を作つて、日本人と一緒に

どの工場もそのまま動かした。深圳から広州いたる地域ですね。当時十万以上で工場が締め

いていました。それが騒動情報で人っこ一人いないゴーストタウンになっちゃった。たつた一つ軒私のとこの工場が夜中もずーっと生産を続けました。これが後になって、東莞市、深圳市、広州市などから非常に評価される結果になりました。マブチ一社はあの騒動のなかで、冷静に生産を続けた、我々の言っていることを信じてくれた。何も起きていないといい続けたけれど、皆踊らされて怖いという事で帰つたりした。要するに私が思い、言いたいのは、時には本社と真つ向から対決する、あるいはクビを覚悟に本社を無視する、時には本社を奉つて本社の権威にすぎない。これが一番いい方法だということです。

四十年もこういうことをして

いると、最近はずっと日本に帰つてきまして、女房によく言われます。何時までもこんなことが続くんですかと。女房は日本にいますから、まあいいじゃないかしらうがないだろう。俺は今限りでと考えてはいる。今日も日本に来てはいるわけですが。女房にむしろ何時でも香港に来ればいいんだ、そうすれば愚痴を言わんでいいだろうなどと言っています。

う駅名が残っています。名古屋と大阪の中間で奈良、京都に隣接しており、特異な地点です。卒業したのは上野高校で伊賀上野城の真下にあります。お城は、藤堂高虎が築城したもので高石垣が有名です。

——滋賀大学には何年入学ですか。大学生活についてお聞かせ下さい。
竹森 昭和四十二年に入学しました。野球などスポーツが好きでしたし、また卓球をやっていましたので、卓球クラブに入ろうかと考え旧体育館へ行きましたが、途中バドミントンクラブに誘われて入部しました。三年生で一度休部し、四年生で復活しましたが、大変楽しいクラブ生活で、中部リーグで活躍できた事も思い出です。当時のクラブ仲間とはその後もずっと交流があり有難く思っております。
その他、囲碁部とESSにも足を入れておりました。囲碁は、小さい時に祖父が教えてくれ、小学生の時から楽しんでおりました。大学の囲碁部では少し勉強もして実力を付けようと大会にも出場しましたが、強い選手が多くいて、最後になると中々勝ち切れませんでした。大学二回生の頃から仕事は商社関係の

こんにち

竹森 二郎氏 (大19回)

伊藤忠ロジスティクス株式会社・相談役

——竹森さんは三重県のご出身とか。

竹森 そうです。元は、上野市と言いましたが、今は市町村合



併で伊賀市となりました。ただ、関西本線には、伊賀上野駅とい

仕事をしてみたいと考えていた
したので、自然にESSにも入
りました。

——彦根の下宿生活は如何でし
たか。

竹森 古い偲聖寮もまだありま
したね。私は、市内に下宿して
ました。

——マージャンなど良くやりま
したか。

竹森 マージャンは小学生の頃
に憶えました。実家の隣に学校
の先生が住んでまして、その先
生がマージャン大好きな先生
で、教わったのです。

——勉強の方はいかがでしたか。

竹森 授業に余り出た記憶はあ
りません。良い時代でした。た
だ、試験の時は集中しました。
要領が良かったのでしよう。成
績はまずまずでした。ゼミは片
山貞雄先生の国際金融論で「S
DR」を卒論テーマに選びまし
た。

——伊藤忠入社の動機は。

竹森 私の叔父が「伊藤忠は面
白いぞ」と言ってくれましたの
で、三年生の三月末に伊藤忠の
面接を受けたのです。結果がな
かなか来なくて、どうなったの
か催促したら、採用決定という
ことでした。滋賀大から五名人
社してましたね。我々の年度は

総数二六七名の入社で、安宅産
業と合併した後は同期が三二〇
程となり、年度別では団塊の世
代で最高でした。

——勤務地は。

竹森 入社式とオリエンテーシ
ョンを大阪で済ませた後はずつ
と東京勤務です。

——最初の配属はどこでしたか。

竹森 船舶部でした。あのころ
は、配属希望を書くようになって
いて、私は、機械の輸出、織
維の輸出、石油を希望としまし
たが、返ってきた答えは船舶部
でした。機械希望なのにどうし
て船舶かと思いましたが、機械
の中に確かに船舶部がありまし
た。

それから、入社以来三十年、
船舶一筋でした。入社五年目に
香港会社への駐在で赴任しまし
た。初めての海外出張先のマレ
ーシアからの帰りに、上司から
香港に立ち寄りを指示され、船
舶駐在員が必要かどうか調べて
こいと言われました。香港には
立派な船主が沢山いて大きな市
場でしたので。

香港の社長が、船舶の担当者
を寄せと本社に強く言ってい
たようです。三菱商事、伊藤忠
以外はみな駐在員を置いていま
した。出張から帰国後、上司か

らどうかと聞かれましたので、
当然配置すべきだと答えしまし
た。そうしたら暫らく後に、お
前行けということで、駐在が正
式に決まり赴任した次第です。

既に結婚していましたが、六カ
月、ホテル住まいをした後で家
族を呼び寄せました。当時は、
社員がまず赴任し現地に慣れ、
その六ヶ月後家族を呼び寄せる
という規則でした。今は、一緒
に行きますけどね。それから五
年八ヶ月駐在しました。

——伊藤忠さんは何で香港に駐
在員を置かなかったのですか。

竹森 伊藤忠は当時、重工業関
連は未だ弱く、出遅れていまし
た。船舶取引にも慣れていま
せんでしたから、第一勧業銀行
グループの一員の川崎重工の人
達の協力等も得ていたと記憶し
ます。

——伊藤忠さんは繊維が中心だ
ったが、それじゃいかんという
ことで、拡充されたのですね。

竹森 そうです。それで有名な
瀬島龍三さんが入社され、重化
学工業への転換を一生懸命に推
進されたということですね。あ
の当時、日本で船を作って海外の
お客さんに売るのであれば、
大きな市場の一つが香港だった

のです。戦後、十数年経った後
の時代では為替の規制がまだま
だ厳しく自由化されてませんか
ら、外貨の調達も日本でも難し
かったのですね。

従って船を作る時に、一つは、
日本の船会社は資金の調達は、
計画造船というのがありまし
た。今でいう政策投資銀行みた
いなものです。例えば日本郵船
がこういう船を作りたい、新日
鉄の鉄鉱石をここからここまで
運ぶということで日本政府系の

銀行が資金を貸し付ける方法
で、造船会社に船を発注すると
いうことです。もう一つは、外
貨を海外で調達出来ませんの
で、香港の船主さん達に船を作
って頂く時に、裏づけとなる備
船保証を出して造船発注を行っ
ていました。

その建造された船を日本の海
運会社が長期に借り上げます、
とコミットをしたんですね。定
期備船といいますが、そういう
形で香港は一大船主国になっ



いったんです。日本郵船、ジャ
パンライン、川崎汽船、商船三
井、昭和海运、山下新日本汽船
と大きな船会社が六社ありまし
たが、その辺が皆コミットした
のですよ。この船、一〇年間使
いますとか言って、それで香港
の船主が大きくなったのです。
一番大きくなったのが、ワール
ドワイド SHIPPING (WW) と
言って S I R. Y. K. P A O
というのがおりましてね。これ
が一番大きくなった船会社で
す。その他で有名なのがギリシ
ヤのオナシスですね。この二社
が双壁です。

別に香港に行くのではなくても商
売は出来るのですけども、矢張
り駐在員がいなくては日々の情
報も分からないからということ
で駐在しました。

——初代駐在員ということでは
社との競争も有ったり大変だっ
たでしょう。

竹森 駐在当初は石油シヨック
もあり大不況でした。なかなか
商売ができず二年目にやっと商
売ができかけて、その後からブ
ームになりましたね。日本の造
船所の皆さんにも大勢来て頂い
て忙しかったです。その意味で
は良い駐在をさせて頂きました
が、最初は大変でした。

の時代では為替の規制がまだま
だ厳しく自由化されてませんか
ら、外貨の調達も日本でも難し
かったのですね。



当初は行ったこともないお客さんの所ですから「伊藤忠は繊維の会社じゃないのか？」と言われた方が何人もいらつしやいました。香港は元々繊維などの

軽工業が活発でしたし、伊藤忠は当時一番駐在員の数が多く五十数名いました。また、二十名近くが繊維の担当をしていました。機械のグループも三から六名へと多くなりましたけどね。

駐在員は六十名近くで、現地のローカルのスタッフが二百名近くいました。駐在は香港だけではなく本社に戻って来ました。

——海外は香港だけですか。竹森 香港だけです。出張では三十、四十カ国行ったところはあります。幸い、船舶の営業は貧乏な国には行かないのですよ。お金のない国に行っても船なんて売れませんかから先進国が中心です。勿論アジアはインドネシアとかそういう所には行きましたけど、お金持ちの国が多かったです。砂漠で大変でし

たという経験はあまりありません。

——オイルマネーを狙って行ったという事はありませんでしたか。

竹森 ああの時代はオイルマネーではありませんでした。他の業界の人から良く聞きます。繊維などは良くそう言っていました。資金調達という意味ではそのようなお金を頼りにした人は大勢います。船舶は輸出一筋なんです。一九七一年に会社に入りまして、一九九九年まで船をやっておりました。国内、アジアとかいろいろな市場の仕事をしましたが、全て船です。今でも船は懐かしいですね。三十年もやりましたから。

——仕事としては面白かったですか。

竹森 面白いし、ロマンがありますし、ダイナミックですね。儲けは別にして、規模からいきますと、十億円の商売は小さいと言っておりましたから。手数料も小さいし、止めるとか。一隻で一番大きな仕事は今でもそうでしょうけど、LNG船（天然ガスを液化圧縮して運ぶ）で四百億円近く、今は円高ですから二百五十億くらいでしょうか、プラ

ントそのものですからね。日本

の造船業がこれだけ発展できたのは、良質で安い鋼板、新日鉄さんとか、良い製鉄会社があったのと、もう一つは全部FOBなんです。船を取りに来てくれるんです。極東まで。通常プラントの連中は、向こうへ持って行って据え付けますよね、これが要らない。全部飛行機に乗って取りに来てくれるんです。こんな楽な商売はないだろうと。

——本場の機械だと向こうへ据付けに行きますね。

竹森 全部持って行って検収して、プラントなど砂漠の中にいろいろな石油のプラントを作っていますよね。全部向こうへ行かなければなりませんね。一回も経験してないのです。FOBで極東の端まで取りに来てくれた。僕は日本の造船業の成功の二つはそうだと思います。入社してすぐ不況産業だったですけど、為替が円高になった時も、ものすごく不況になって大変だったんですけどね。だから、会社に入った頃から造船規模は四分の一くらいになりました。当時は世界一でした。今は一番は韓国です。二番は中国、三番は日本でしょう。

——そうすると韓国とか中国とかに、造船のトップを譲った。

今の船舶営業は当時より大変です。今のは競争力が無いので、一時は韓国の人が多かったのですが、今はフィリッピンの人が多くなっています。中国の人も乗ってま

びましたでしょう。中国の船舶需要が増えましたから。あの頃は船舶一大ブームでしたから、船会社さんも大儲けしました。地方の船主さんも儲けました。今は逆に塗炭の苦しみです。為替で皆やられていますよ。船会社さんをオペレーターと言うのですが、郵船さん、商船三井さん、みな大変です。一時は中国南北の五千キロ全部造船所になるぞという位、名も無い造船所が幾らでも出ています。

日本の地方の船主さんは地方銀行から円でお金借りるでしょう。一〇〇円から一〇五円位の間で計算して借りてたのですよ。今七六円、七七円ですよ、収入は八割方ドルなんです。円の収入は若干ありますがね。一一〇円、一〇〇円の収入が、今七五円しか貰えないのですよ。二五%レスなんて目茶苦茶な大きさですから。一方返済は円で返さなければなりませんので、物凄い負担で、為替でやられて、更に燃料の油の値段が高

くなりました。船員は日本人で

は競争力が無いので、一時は韓国の人が多かったのですが、今はフィリッピンの人が多くなっています。中国の人も乗ってま

料がどんどん上がっています。コストは全部上がり、収入は下がり、為替では、やられるは、三重苦ですね。商社がいま儲かっているのは資源です。三〇年前、二〇年前穴掘った人（投資した人）は苦労しましたが、今それを売っている人が儲かっています。

——資源とは。竹森 鉄鉱石と、石炭と、油とかガスですね、これ全部高いですよ。鉄鋼石は今一七〇ドル（トン当たり）しています。昔は多分四〇ドルでした、つい一〇年か一五年前は。鉄を作る原料炭なんか、二五ドルくらいになっているのではないですか、正確ではないですけど。BRICS といつて、それらの国の経済が伸びて自分で資源開発もしていますし、世の中、様変わりになりました。死ぬような苦労もしましたが、商売は物凄く楽しかったですよ。一時大損もして船舶部は必要なのかと会社からも言われたりもしましたが。——今でも船舶の中心は香港で

すか。

竹森 いいえ、至る所です。ギリシャ、ロンドンにも駐在員がいます。昔は、ニューヨークとロンドンでした。アメリカは海運国から直ぐ駄目になりましたが、今でも香港、韓国、ギリシャ、英国、ノルウェーとか、北欧が一大拠点なのです。

造船国としては韓国です。韓国の船会社とはたくさんお付き合いしました。又、造船会社としては現代重工とか三星重工とか。中国の船会社さんで、COSCOという世界に冠たる船会社さんとも永くお付き合いしました。

——韓国の造船会社が日本をはるかに凌駕して行くそれだけの理由はあるのでしょうか。

竹森 一番はですね、国が若い。日本より労働力が若い。日本といえは高齢化で、若いブルーカラーの労働力が集まってい

ない。3Kだと昔は言われましたしね。危険、汚い、きつい、働くのは大変だと言われたですね。兎に角、働いている人が若い。それと為替がダントツに違います。ウオン安をうまく為替介入しながら管理をしていますね。ドル建てで競争しますと、必ず日本は負けています。鋼板

も今ではPOSCOという立派な製鉄会社があります。新日鉄と肩を並べる会社です。良質の鉄板の供給、通貨安の為替管理、若い労働者。韓国では造船業と

いうのは新しい産業ですので地位が高いですよ。給料も良いし、設備は全部新しいですよ。日本は老朽化しながら少しずつ規模を大きくして来た歴史ですが、韓国は一度にドンと大きな造船所を作りましたから。現代も、三星も、大宇も全部そうです。

最近あの原発の事故から、LNG船ブームになりましたね。それまではちよつと大変だったんですけど、海外の需要も急激に大きく今年も今迄に、世界で六〇、七〇隻の発注があつて、そのうち九十九%が韓国です。

日本は二ないし二隻です。最近中国も日本と技術提携しながら作っています。

——そういう韓国、中国、新興国の中で商社活動も大変ですね。竹森 普通の商売をやっていたのでは合わなくなつて来てますし、商社もコストも上がつてますので、一寸したものを売つて

いたのでは儲からなくなり、割に合わなくなっています。そのコストを賄って利益を出すのは、大変です。今は商社が一番

儲かっていますが、逆に僕は商社危機説を勝手に言っているんです。

——どういうことですか。

竹森 商社冬の時代というのが昔ありました。それは乗り越えて来ているのですけどね。商社は今は良いのですが、五年一〇年後危機だということです。マーケットイングというのが商社の方でした。メーカーさんと一緒に後進国を廻つて、新しい市場を開拓して行き、それなりに営



業マンは商品知識もありました。一方、日本メーカーさんも海外進出してますし、商社なんかコストがどんどん上がつて

ます。普通の商売していたのでは駄目なんです。従つて投資に傾斜しています。古いかもしれ

ませんが、日本のメーカーさんと一緒に苦労してないとか、商品知識が無くなる商社で大丈夫なのかと心配です。

——新しいマーケットイングとして今後の方向はどうでしょう

か。

竹森 市場としてはアジアが一番。商品としては新技術とエネルギーに行かざるを得ないでしょうね。

——儲けるには長期に掛かりますね。

竹森 それと日本も世界も、一寸した新技術はすぐキャッチアップして来ますから。太陽光発電といって、皆さんのお家の屋根にあるもの、日本が一番ですよ。部材として輸入しているのは中国ですが、世界のパネルメーカーが一番強い会社があるのは完全に中国ですよ。日本から部材はものすごく出るので

す。液晶なんて全部そうですよ。有機ELも全部、中心になる物は日本で作っていますが、まとめて完成品を作り上げているのは中国ですね。

ヨーロッパ経済がここまで悪くなる前ですが、スペイン、ギリシャ、イタリアで物凄く政府が支援したのですよ、所謂太陽光発電を。フィードインタリフというのですが、政府が補助を出して電気を買い上げましたから世界中の投資家が集まりました、一時は。それがリーマンで

全部ダメになりました。最近のギリシャ問題でヨーロッパの大

開発はスローダウンしています。これからは中国が砂漠で発電するだろうと言われてい

ますが、それでは割に合わないだろうなと思います。原子力とは言

いませませんが、普通の発電の規模と比べて物凄く小さく、産業界

を賄うことは殆ど出来ないと思

います。仲々これからは商社も

大変だと思えます、中国とかインドなど新興国が伸びて来ますので、頑張つて欲しいです。

——伊藤忠ロジステイクスに移られたのは。

竹森 二〇〇六年です。九九年に船舶の部長からプラントの部長になり三年やりました。プラント部門はその傘下に船舶

部、化学プラント部、電機プラント部、インフラ部などがあり

ます。その部門長を三年、二〇〇三年に機械グループとい

うのがありまして、丹羽さんが当時、擬似カンパニー制度とい

うのを作つたんですよ。繊維カンパニー、機械カンパニー、何

とかカンパニーという七つのグループ、それぞれが独立した企

業グループです。

この機械カンパニーのEVP

という副社長を一年、その後、二年間社長(常務取締役)をやつて、そしてここに来ました。

—今の仕事は。

竹森 全くの素人です。

—前の仕事と違いますか。

竹森 全然違います。船舶と物流というのは少しはお付き合いも伊藤忠時代にはありましたが、全く違います。物流とは商品・荷物を相手に届けるわけですね。船というのは引き取りに来てくれるのです、相手が。だから届けたことがないのです。B/Lも殆んど見たことがないのです。要らないんです。荷物



を運ぶ本体を売ってましたのでね。船に乗せる荷物のアレンジもした事がないです。だからこの会社に来て大変でした。マネージメントは同じですけど、商品知識はないのですよ。

—社長にご就任になって三年。竹森 四年やりました。去年、

取締役相談役をやり、今年は、相談役となりました。もう卒業します。よく仕事もさせてもらいました。

—我々素人が考えて、倉庫と

かは、簡単に考えれば、保管業務なんかですね。

竹森 保管業務では全然儲かりません。今、世の中、在庫をしないことが商売の基本でしょう。そんな保管業務のような仕事をしていたのでは駄目なんです。今、3PL(サードパーティーロジステイクス)というのですが、メーカーさんの商品管理、配送、仕分け、要するに商品の受配送から管理を、一括アウトソーシングする商売がものすごく増えてましてね、そういうのをトータルとしてやって行かないと全然ダメですよ。私共この会社では、トラックは一切保有してませんから余所さんにお願

いしてやっています。

国内、海外と分けて七割は海外関係です。商社系ですの、物が出て行く、入ってくるとか、そういう商売の方が多いですね。今のところ、日本のメーカーさんが海外に色々な工場を作られて、そこに原料を持って行く物流なんかもやらせて頂いて

ます。

—これからの海外というのは、どの辺が。

竹森 アジアです。中国もどうしたって、これからの市場としては大きいですし。

—インドは。

竹森 インドにも新しく出て行きました。現地資本とジョイントベンチャーの会社も作りました。インドネシアが最近復活しているのです。最近は何となく伸びています。この辺ではインドネシア、インド、タイ、ベトナムでしょうか。ベトナムって日本人好きなのですよね。日本人もベトナム好きですし、シンパシーが合うのかな。

—体格も同じぐらいですし。

竹森 それは間違いありませんね。上手です、人の扱い方が。日本人をおだてるのも上手です。ODAという政府援助がありますね。一時は、中国が一番でした。今はベトナムとインドネシア

ですが。例えば極端な例で申しますと、日本が中国で橋を作りました。有難うございましたとは言いますが、二度目から習った技術で、自分たちで作るの

で金だけくださいとなりますが、ベトナムは賢いですよ。これは日本政府のODAで作った橋ですと記念碑に書くのですよ。日本人、感激するのですよ。中国人は日本にお世話になったと書きたくないのです。二つ目は自分でつくっちゃうのですよ、真似て。

—自分の技術のようにね。

竹森 新幹線と同じですよ。ベトナムは違いますから。ベトナムはいい奴だとなるのです。ベトナムが一番だと思います。新幹線も敷くとか色々言ってますからね。二番目がインドネシアです。インドネシアは歴史的にもずっと多いですけど。中国

は過去からインドネシア、マレーシアでも作ってましたけど矢張りベトナムに行ってますね。タイも物凄いですけどね。ベトナムの人は賢いのは確かですね、民族的には。大した人達です。

—ところで、身体の具合とゴルフなどどうですか。

竹森 健康は大丈夫ですが、椎間板ヘルニアを患って腰が悪いのです。でもゴルフはやってます。ハンデイ九で、つい二、三年前には八でした。西坂大先輩よりは上手いですか？ 陵水ゴルフからもお誘いを受けております。来年は出れますからと言ってますが。

星出公認会計士事務所

所長 星出 潔 (大13回)

〒112-0002 東京都文京区小石川2丁目3番28-805号

TEL 03-3815-3451 (代表) FAX 03-3815-3637

E-mail : khoside@cameo.plala.or.jp

年次幹事所感

竹森 仲間達とは、年二回ゴルフ。思いついては、暑氣払いだとか名目付けて、食事会とか良く集まっています。二〇人くらい集まりますかな。

——あの幹事をやった後、みんなの結束が強くなったと聞きますが、如何ですか。

竹森 確かに結束が強くなりました。当番幹事をする事によつて相互の連携は密になりますね。二〇〇七年に当番幹事をやりましたが、二〇〇八年、関西の人間が頑張ってくれまして、もう還暦だからということ、何十年振りに彦根で集まりました。滋賀にいる人が皆に声をかけてくれて東京の人も集まって、二百人ちよつとの卒業生の中で八十五人集まりました。勿論住所不明もありましたが良く集まりました。それも一つのきっかけになっております。メールアドレスも登録されてますしね。門平君が一番の世話役をやってくれています。

——陵水会の参加についても年齢的にある程度までは難しいとか、何かご意見ありますか。

竹森 年度幹事を誰か一人ずつ指名して、毎年総会の時に声を掛けてくれる人が出来たら良いですけどね。ただ東京に何人い

るか分からないとか、分からないと困りますが。声かけ役がいるといえないのでは大きく違いますね。転動もあつて難しいですけどね。

——今、幹事会には年度毎に入ってもらつてます。全年次入つてもらつてますが、若年次の人はその代表すら余り関心が無いのがネックかなと思います。

竹森 二〇年前にそういう役をやれと言われたら勘弁して下さいと言つたでしょうね。今は、土曜日にやつてるのは良いですね。昔は平日でしたね。平日ですと会社ですから、早目に会社から出なければならぬので、土曜日の方が良いですね。我々の引き継ぎの時は、門平君が良くやつてくれました。幹事会の十八回がやつてくれた時に十九回へのその引き継ぎに総会で、彼一人がやつてくれたんです。

——あの時、竹森さんが代表リーダーで良く頑張られたと聞いております。

竹森 ただホテルのアレンジとか、会場の段取りは。日航ホテルは当時伊藤忠の関係会社でしたから全部頼みました。住所の分からない人が沢山出て来ましてね。色んなコネ使いながら、

それぞれ担当決めましてね。バドミントン、柔道、ラグビーなどクラブ活動別、ゼミ別に頼んでもらつたんです。彼らもそろそろ出席しても良いなと思ひ掛けていると思つたので。丁度いいタイミングだつたと思います。

——今、竹森さんの年代は現職が多いのでしょうか。

竹森 半分現職、半分退職ですね。働きたいので、自分のコネ活用とか、付き合ひ先で働いていますとか、一週間に二日働いていますとか、そういう人も多いです。

——元氣でますます活躍下さい。

竹森 いや来年は退職予定です。充分働きました。

——最後に座右の銘はなにか。

竹森 いや何もないのです。竹森語録などはその時々を作りましたが、私はこれだという座右の銘は無いのです。いい加減なものです。

——いえいえ何を仰つて。今日

は長い時間、有難うございました。

大学二十五回卒業以降の各期幹事の皆様から次の設問により、アンケートさせて頂きました。（回答をお願いした際の、設問を省略しました。）

- ① 滋賀大学、彦根の思い出を
- ② 現在の職場で担当されているお仕事について。
- ③ お勤め先での経験など。
- ④ クラブ活動やゼミで得られたことが、社会生活において、仕事の上でどのように生かされますか。
- ⑤ 将来的な人生設計をどのように立てられていますか。
- ⑥ ご関心をお持ちの政治経済問題について意見、ご感想をお聞かせ下さい。

皆様から戴きましたアンケートの内容を、編集部において適切にアレンジして記事にまとめたいものです。

学生生活の思い出と現在

北尾 聡 子（大45）
私は四年間（一九九三・四〜一九九七・三）、大阪から二時間かけて滋賀大学に通いました。一時間に数本しかない新快速との乗り継ぎを考え、やっと彦根駅についたと思つても、そこから自転車彦根城のお堀の傍を半周しなければなりません。雨や雪の日ほもつと大変でした。滋賀県の天気は、野洲辺りを境に、北（彦根側）と南（京都側）で異なることが多く、大学から彦根駅に着くまでに大雨で傘も服もびしょ濡れになったのに、京都に着いたら傘をもつていない人が多いことによく驚かされました。そのため、朝は必ず天気予報をチェックして出かけていました。今みたいに、スマートフォンで電車に乗りながら天気をチェックできるような時代ではありませんでした。

私は、ほとんどの講義を真面目に受ける、めずらしい学生でした。父が大学で首席だったことへの対抗心が私をそうさせていたのだと思います。後半、ダブルスクールもあり、結果的には首席にはなれなかったのですが、専攻した講座はもうほとんどが優でした。ただ私の財産となったのは、優の数ではなく、講義で聞いたことをノートに取りまとめめる力が格段に上がったと思つています。

大学在学中は、ESSクラブに所属していました。もともと英語には興味があり、演劇も好

きでしたので、とても楽しく過ごすことができました。非常に面倒見のよい先輩方、信頼できる同期、やる気にあふれた後輩と行事を通じて協力しあえたことは、とてもいい思い出です。関東に住んでいるクラブのメンバーとは、今でもたまに集まる機会があります。久しぶりに会うと、新鮮で、各方面で活躍しているメンバーの話聞くことができるので、いい刺激を受けることができます。

三、四回生のゼミでは、吉田修先生のゼミに所属していました。経済学部に属しながら、吉田先生の講義に魅かれ経営学に興味を持ち、ゼミ幹事を務めさせていただきました。卒論のテーマは、「日米独のコーポレートガバナンス」でした。吉田先生は、私の結婚式で、主賓のスピーチを快くお引き受けくださりました。仲人をお願いした、横浜国立大学の稲葉先生ご夫妻とは、お知り合いであったことにもご縁を感じました。

私が在学中、世の中は就職難の時代でした。卒業後、結婚したとしても一職業者であり続けたいという思いがあり、そのためには何か資格があったほうがよいのではということで、公認

会計士試験を目指しました。四回生で一回目の受験をし、一般事業会社への就職活動はせず、卒業した年の十月、二回目の受験で合格し、青山監査法人（大阪）に入所しました。入所して三年後に結婚し、結婚した年（二〇〇〇年）に、主人の転勤で東京に異動（半年ずれ）しました。それから二度の産休をとり、現在は、あらた監査法人（東京）に勤めています。以前は監査ばかりやっていましたが、ここ数年は、IFRS関連のアドバイザー業務に多く関わっています。会計の分野は、日々新しく進化していくため、勉強は欠かせず大変です。しかしながら、専門性を高めれば高めるほど、付加価値のあるサービスを提供できるのだと思います。「質問されて答える。」その繰り返しですが、クライアントからの信頼を得ることができたと実感できる瞬間が、この職業の醍醐味だと思っています。

先にも述べましたとおり、私には二人の子供がいます。かけがえない宝物です。仕事の代わりは見つかっても、母親の代わりは見つかりません。幸い、周りの温かい支えに助けられ、私流の家庭と仕事の両立を続け

ています。家事のできる時間に帰り、夜子供が寝た後で、片づけないといけない仕事は片づける。なんとかなるものです。今は、会計士になっても就職難の時代ですが、信念を持ち続けてがんばってれば、道は開けてくるものだと思います。IFRSでも監査でも、私

で何かお役に立てそうなことがございましたら、是非ともご一報下さい！

仕事を続けていたいという思いはありますが、正直先のことにはわからないです。定年後の具体的な計画も今はありません。ただ、趣味のピアノを続けて、ピアノをひけるおばあちゃんになりたいという希望はあります。子供をピアノ教室に通わせているうちに、昔ならついていたピアノをまた弾きたいと思うようになり、月に二回、私もピアノを習っています。年に一回、大人の発表会（二月）もあるため、今年はショパンのノクターンNo.2を練習しています。

予測不可能な事態がいつ起こるかかわらないということは、心の片隅で意識するようになり、ました。タイの洪水被害をみて、当然日本だけに目を向けていてはだめで、世界の中で物事

をとらえることが重要だと感じます。企業がグローバル化せざるをえないように、会計のグローバル化も必至だと思います。IFRS適用を遅らせるなんていつている場合ではないと思います。もちろん会計士という職業も、国境の垣根がなくなるでしょう。このような環境変化に柔軟に対応し、各国の会計専門家と会計について議論できるよう、これからも精進して参りたいと思います。

私よりご多忙な先輩方が、陵水会を運営してくださっておられることに、こころより感謝申し上げます。いつか、もう少し落ち着いた頃に、同期を誘って、少しづつ活動にも参加していければと思っております。皆様のご健康とますますのご発展をお祈り申しあげます。

彦根の思い出と現在

武田 吉史（大30）

彦根の思い出と言う意味では冬の寒さ、若干、二期校ということで田舎へ落ちた感もありましたが、その中で小さくこじんまりと友人に恵まれて狭いが暖かい社会の中で四年間のんびり延び延び過ぎた感があります。

又昨今の綺麗になった彦根の街並ではない本当に入り組んだ城下町の細い道などをたまに思い出します。日常生活、クラブなどそれぞれに思い出があり、たまに友人と旧交を温めてはおりますが、年代的にそれぞれ忙しいので、年に一度出来ればの程度です。

護国神社の能舞台を部活（楽部）で手入れを少しだけお手伝いしていたのが、今ではお城で丁寧に保存されているのには感銘をうけました。現在ジャパンシッピングサービス株式会社に勤務しています。ここは同族会社ではないのですが、その他の同族会社を含めて後、数社関係会社の代表取締役をしております。シップローカーという海運仲介業（甲仲業）がこの会社の業種です。卒業以来のことです。商社入社、研修生、海外駐在を経て八年経過前に独立、現在に至っております。数年前より業界の協会の常任理事もやっております。まだまだ経験を活かしきれないもので、コメントは控えさせていただきます。敢えて言えば辛い時期もまた楽しい時期もあるということでしょうか。

定年後はどの質問ですが、ま

まだまだ現役で朝から朝まで仕事三昧の日々にてご迷惑をおかけしております。昨今リーマンショック以来、また九〇パーセント以上がドル収入の業界ですの、かなり稼働率があがっているというのが現状です。出来ればもう少しペースダウンもトライしたいのですが、後継者やその他問題も山積みでして今しばらくご迷惑をおかけいたしますが宜しく願います。

政治経済情勢を考えてみます。まさに政治不況ともいえると思います。英国がそうやってきたように、我が国も産業が衰えて行くと危機感も募り、また改善もあるのかもです。人口の減少が深刻になる前に政治家・公務員削減を徹底して、誰かがやらないとまた海外進出や税務対策において空洞化が進むことが懸念されます。憂国ということではなく、愛国を持って臨める人を増やしたいものです。

彦根の思い出と現在

金岡 昌彦 (大36)

思い出は何と言ってもクラブ活動。新人生でゴルフ同好会に入会し、同好会での活動を体育会総会で認められてゴルフ部に昇格。約四十名の部員とともに

関西ゴルフ連盟主催の大会に出で、「滋賀大学」の名前を印象付けたことが思い出です。

三菱東京UFJ銀行リテール事務部(本部)勤務で支店の事務指導をしています。旧三菱銀行に加入。大阪の梅田支店に配属されてから、転勤十一回を経験しました。その間に東京銀行との合併やUFJ銀行との合併を経験。お客様や職場の仲間にも恵まれ「人との繋がり・絆」の大切さを得ることができました。

社会生活に入って、ゼミやクラブ活動で培った団体行動での規律や、組織力の活用は仕事の上で非常に役立っています。

将来のことは先輩のお話を聞いて、将来設計を立てています。政治経済のことでは、日本の産業空洞化がとても心配です。それと円高対策を構じていく努力が欠かせません。

彦根の思い出と現在

水上 康弘 (大32)

ゴルフ同好会に所属し毎週末キャデイのバイトをしていたのが一番記憶にのこっています。社会に出てから接客の経験をしたことや、身体を鍛えていたことが役立ちました。

現在の仕事は、生命保険会社

小池英夫氏の思い出

藤本 幸延 (大15)

私が、小池さんに初めてお目に掛かったのは、富士貿易入社面接の一九六六年夏でした。オーストラリアから帰国されて暫くの頃で、小池さんは余り多くを語られなかったが、此の人が滋賀大学スポーツ部の先輩と知り、同じ湖上スポーツのヨット部の私は親しみを感じました。



とは「何事も途中で投げ出さな

いこと。」と言うことです。

将来定年後のことは現在のところまだ考えていません。

政治経済の問題で関心を持っていることは、何と言っても我が国の財政再建に尽きると考えています。

細々した物を詰めている最中に、小池さんから、「ワシの後任として社長を引き受けて貰いたい」と唐突な電話がありました。私は驚いて、「出張から帰国後、改めて話をさせて下さい」とだけ話しましたが、諸先輩が居られるのに、何故私が……と言う気持ちに錯綜したまま、翌朝離日しました。

帰国後、小池社長に出張報告を済ませ、出発前の電話の件について話をしました。

「色々考えたが、君に社長を託したい」との説明だけで、その「色々……」に就いては敢て聞かず、社長引き受けの条件は、前任社長に相談し、助言を得るものの、最終決断は新任社長が行うと言う確認でした。つまり社長としては、院政を敷かれたくないと言う意志でした。オーナー社長は、大株主でもなく、姻戚関係の無い者に全てを託す

経営再建コンサルタント協同組合

理事長 長井和男 (大22回)
公認会計士

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-4 共同ビル(八重洲口)505

TEL 03-5255-3511 FAX 03-5255-3512

E-mail : nagai@sai-ken.or.jp

不安感が有るのは当然ですが、私の申し出に小池さんは暫くの間、沈黙され、「それで良いから、宜しく頼む」との返事でした。その瞬間に富士貿易の三代目社長が決定しました。

社長就任以降は、役員会議等では、小池さんから常に私の意見をサポートして頂いた。しかし、二つの案件に就いては、中々納得されませんでした。社長の私としては、是非、進めたい案件でしたので、かなりの日数を掛けて繰り返し説明し、やっと「判った。社長の思い通りにやってくれ。しかし私が反対だと言う事は忘れるなよ」とのご意見でした。それ等案件の実行は、小池さんの意向を汲み慎重を重ね、上手く完了する事が出来ました。

会社継統上、勇気ある経営決断をされた小池さんは、素晴らしい経営者だと実感しています。

故小池英夫先輩との思い、出

北澤 勝太郎(短5)

小生、昭和三十五年春入社以来富士貿易では営業一筋五十年間共に働き苦難を共にして来ました。小池さんの主義主張は以下の様な事であったように

思っております。

一、顧客は世界に求めよ。そのためには世界の業界全体に認めさせる統一したカタログを富士貿易が作成し、商品に共通の言語、規格、番号を定め世界の顧客のユーザである船員も購買権のある船主も我々サプライヤーの三者が共通で世界中で使用できるものを作成する。

二、商売はお金持ちと取引せよ。
“No Money-No Foods”の精神で営業。売掛金の回収で厳しく教育を受けてきた。

三、国際価格競争にも負けない購買体力の確立と営業面で信頼できる顧客とは長期に渡る信頼関係を確立する。

四、海外拠点の設立には優秀な人材派遣を行い日本の富士貿易の精神を生かして現地人と協力し、日本の富士貿易と同質のサービスを提供する事を目指す。

小生から小池さんの人物像を述べると、質実剛健であり無駄を嫌い、経費面では自分自身に對しても厳しく、賭け事、異性関係も全くなかった。酒は北歐のアクアビットとビールを飲むのが好きな人であった。又、決してケチでないが質素な人であ

り、四十年前にオスロで買った Longin の時計を常に身に付けていた。五十年間小池さんがオスロ時代から使っていた、模様

の塗料も落ちたペーパーナイフを現在、小生が使っている。小池さん良く叱咤激励してくれてありがとう。冥福を祈り、合掌。

告別の記

吉原悟一君(大9)

林 謙治郎(大6)

吉原君の病氣入院を知ったのは、五月の連休明けでした。しかもかなり深刻だとのことでおよそ病氣とは無縁の男でしたから大変驚きました。五月十九日に大5の久木義雄さんと病院に見舞った折には、まだすこぶ

る元氣でしたが、それでも説明では「肝臓と脾臓がガンにやられていて、部位との兼ね合いで切除ができない、抗がん剤の投与になるが、もしそれが効かなければ余命は三カ月」とのこと

で、悲痛な思いで帰りました。奥様をはじめご家族は、当該病院の治療メニューとあわせて別の有効との世評高い治療も試みられました。その甲斐なく、七月中旬には帰らぬ人となりました。本人が不調を訴えた四月下旬から僅か二ヶ月半のあわた

だしさでした。月並みな表現ですが「人の命のはかなさ」を思い知らされました。

思えば吉原君とは長い付き合いでした。出会いは一九五七年四月、彦根キャンパスの水泳プール。奥にあった武道場です。私が柔道部四回生で、彼はその年入学した新入部員でした。彼は中学高校ですでに柔道の部活を経験し、同期の谷口幸二君とともに貴重な有段者でした。



吉原君は陵水会の活動にも熱心で長年役員を勤めましたし、ゴルフの会、囲碁の会、散歩会などマメに顔を出して交友の広さは抜群でした。彼は誰とでもすぐに打ち解けられる独特の懐の深さを持っていました。証券マンにありがちなギラついたところが無く、仲間内では仕事の話はあまりしませんでした。が、コスモ証券の後輩の人によれば、売り込みに行っても顧客に商品のリスクを丁寧に説明して「そこまで言わなくても」と思うほど誠実であり、一面後進の教育では厳しさも持ち合わせていたようでした。

長崎東高校からきた吉原君は谷口君とともに一回生ながら即戦力になってくれました。小柄でしたがすでに五年の柔道歴があり、右の背負い投げが得意で試合巧者でした。同じ道場で共に汗を流したのはわずか一年でしかありませんが、以来柔道部OB仲間として半世紀を越えるつきあいになりました。付き合いの中心はもちろんOB会活動です。吉原君は夏の総会、秋のシニアOB旅行会、暮の忘年会と定例の会合には皆出席を誇っていました。実に健康だったのです。

吉原君はゴルフが大好きでした。五番ウッドが得意で「ミドルホールは三オン、ロングホールは四オン、そして一パットでパー」が口癖で常に強気で樂觀的なゴルフでした。ドライバーが当たると「芯を食った」と大喜びでした。電話をかけてくるたびに「ああ吉原です」で始まります。電話をとる家内が「吉原さんはいいつも明るく元氣ですね」と感心してました。その声はもう聞けません。心からご冥福をお祈りします。

三十七年振りの卒業式

河添 治 男 (本21)

終戦により、海軍航空隊から復員して滋賀県草津の自宅にいた私の許に、学校から一通の封書が届いた。

「九月十四日ヲ以テ卒業ニ決定致候間、此段御通知申上候。追而、時局下、卒業証書授与式ハ執り行ハザルコトニ相成候間、御了知相成度」とあり、卒業証書が同封されていた。

かくして、昭和二十一年三月の予定が半年繰り上げられて卒業の扱いとなった。

昭和十八年四月、彦根高等学校に入学した。当時は国立とは言わず「官立」と称し、入学者の名簿は官報に掲載された。新入生は本科A・B組(中学出)、C組(商業出)、東亜科(中商混合)の四組、二百十名であった。

今、手許に「第一学年第一期時間割」があるが、英語(英訳・英作・英会話)第二外国語(独・仏・支那)、経済原論、法学通論、配給論、商業数学、経済地理、簿記、国史、近世史等の科目が並んでいる。経済原論の教科書の冒頭に「人生は(内的生命の流動曲線及び緊張・分

岐・昂揚・弛緩等の法則性によ

りて)音楽的に汲み盡し得るかもしれない。けれども、哲学的に汲み盡すことは不可能である」のを読んで、いかにも学問の府に入学したとの感慨を覚え、向学の志を新たにしたので憶えている。

しかし教室で講義を聴いて勉強する時間は長くは続かなかつた。戦局は日に日に厳しくなり、「一億総決起」の号令の下、教室を出て、能登川や河瀬の農村への稲刈奉仕、大津に新設され



る海軍兵舎の建設工事への勤労働員、敦賀連隊に短期入隊しての軍事教練などに掛けることになる。そして遂に、昭和十

九年八月、学徒動員令により、全員が名古屋の大同製鋼(株)の軍需工場に出動することになった。名古屋市鳴海の瑞泉寺を宿舎として工場に通い、兵器の生産に携わることになるが、過激な重労働の為に健康を損ねる者や、米軍の空襲で怪我をする者もでる厳しい動員生活であつ

た。加えて学生の徴兵猶予制が廃止されたため、次々と陸軍や海軍に入隊する者が出て、終戦の時、瑞泉寺に残っていた者は僅かに九名であった。その中の一人鳥居和也が八月十五日に詠める歌。

「刀折れ 矢尽きて死なむ
ますらおの 命かなはず
耐えてゆくべき」。

昭和二十年九月、卒業の扱いになったものの、終戦直後の激動混乱の中、就職は儘ならず学校に相談しても「在学生への対応で手一杯、卒業生の面倒までは見られない」とのこと。已む無く自力で手蔓や縁故を頼って就職先を見つけねばならなかった。それでも何とか糊口を凌ぎ、

漸く生活の安定を得て、クラス会を持てるようになって「瑞泉寺で散り散りに別れて、卒業式もしていないのは誠に無念、自前でも良いから卒業式をやるうじやないか」との話が持ち上った。有志が大学当局と交渉し快諾を得て、昭和五十七年九月十一日、

在学時代の校舎で唯一残っている講堂で三十七年振りの卒業式を行うことになった。

九州、北海道はじめ全国から馳せ参じる者、七十五名、恩師、

漢方医師になりました

法 橋 正 虎 (大11)

高橋源次(英語)、桑原晋(経済)、片山陽一(英語)、石田興平(金融)、長谷川六二郎(事務長)の諸先生もご出席いただいた。滋賀大学学長川崎源先生が「皆さんは十分な勉強はできなかったが、動員先で別の勉強をされた。老いて学べば死して朽ちず」と「卒業式辞」を述べられ、続いて五人の先生が次々と登壇、当時の思い出などを話されたが、特に高橋先生が、瑞泉寺の頃に詠まれた短歌を朗誦されてのお話に当時は思い出して涙し、また桑原先生が「卒業記念講義」として「経済学の本質と景気の現代的性格」と題して講演されたが、先生の独特の口調に往年の教室の講義を思いだして懐かしく拝聴した。

そのあと、校歌、寮歌を合唱、講堂前で記念撮影をして卒業式を終えた。式後、経済資料館など校内を見学した後、席を湖畔の旅館に移して、宴を開き夜遅くまで思い出話に花を咲かせた。

戦時下の国策に翻弄されて、教室での実質的な授業を受けたのは僅かに一年半、誠に苛酷な彦根の学園生活であった。十分な勉強が出来なかった悔いは今でもあり、未だにある種の負い目を引きずっている。

退職した翌年の二〇〇二年二月六十三歳、北京で中国医師国家試験を受け、五月国際中医師A級合格の免状が送付されました。受験資格の取得、病院での臨床実習を含め、準備に五年をかけた事になりますが、受験は、どたんばになって決心しました。試験は先ず暗記ですが、その量に驚かされます。医師は人の生死に関わる職業です。あの医学知識を持っているかどうか、人の生死を分けます。試験科目は十科目。例えば診断学では、脈診だけでも二十七種類の脈の取り分けが要求されます。

合格基準は臨床各科の主要科目で、八十点以下が一科目あればアウト、他は六十点でアウト。受験仲間には現役の漢方医が多く、ここで優秀な内科医と親友になりました。彼は我が家の家庭医でもあります。十年来、毎月数回会い勉強会をやっています。人間的にも尊敬しています。

人に必ず聞かれるのは、なぜ始めたのか、どこが面白いのか、この資格は金になるのか、でした。中国医学を始めたのは、全

くの偶然です。退職後は、四世紀末の求法僧、法顕（注）の十年の旅を追って、妻と何年か掛けて西域を歩くつもりでした。

八十年代に入り四十歳代、次々と、海外、人事、財務の担当役員になり、担当を代わるたびに激変がおこり激務でした。これは同年代の方々皆そうだったのではないかと思います。ふと、このままでは保たぬかもしれないなあ、の感覚がよぎりました。しかし現実には、手抜きを許しません。考えての結論は、第二の人生を作る事でした。人生に第一も第二もありませんが、休日は、万難を排し別世界で過ごそう。ただし週日は一切にこの世界には手を触れない。これを原則としました。これは退職の日まで貫きました。着手は、何時かやろうと思いつつながら四十代になってしまった座禅です。臨済宗の寺で受戒して、正傳の法名を頂きました。スリランカの高僧の所にも数年通い、南伝仏教の座禅を習いまし



た。これと少し重ねて、若い頃から読んでいた、老子と易経に取り掛かりました。老子は、早稲田の楠山春樹先生の、馬王堆出土老子の解説を、易経は、別の先生から周易本義を、四年ほど繰り返し聞きました。これは結果的に漢方哲学の勉強に役立ちました。中途半端は、時間の無駄です。納得いくまで、時間をかけました。時間は十分ありません。週日は一切、手を付けな



脈診の場面

い規則は、結果的に集中力を付けてくれました。馬王堆からは、ほかに医学書が出土しました。これにも興味を持ち、漢方の古典を立ち読みしましたが、理解不能でした。あちこち歩いて、中国の医学書にめぐり合いました。医科大学の看板教授で付属病院院長をされた方、第一級の人物です。先生の講義にもぐりこみ、聞いてみると面白い。医学が面白くてしょうがない人の講義が、面白くないわけがありません。この世界を勉強してみよう。医師試験は考えの外でし

た。受験資格も結果的に取れていただけです。学んだ事は、漢方医学は精密に体系化された科学だという事でした。しかし医学は治してナンボの世界です。理論は実績に耐えなければ捨て去られます。私の今の興味は、歴史の節目で新しい理論が生まれた背後の、天才達の苦闘の解明にあります。人間ドラマです。こうして漢方理論は、臨床のチエックに耐えて科学として洗練されてきました。宮廷医は、皇帝の治療を誤れば殺されます。医師は必至で患者を観察してそれを理論化しました。これらが集大成され、一世紀ごろ科学体系の基礎が確立されました。テレビなどで言われる「漢方」の多くは、漢方薬を使うだけのただの民間療法です。科学ではありません。私にとって漢方の面白さは、その深い人間観察と理解にあります。良き先生に面白さを教えられました。友人で退職後、第一線の蝶類学者になり、新種の発見で認められた男がいます。もう一人は退職すぐに、プロの茶道宗匠になった男がいます。二人とも猛烈重役でしたが、何十年も前から自分の道を見つけ、こつこつ勉強していたようです。どうして蝶なのかときいても「そりゃ、綺麗だからよ。」で終わりです。私は今七十三歳、漢方は趣味です。臨床医の仕事は、かなりの国で可能なのですが、日本では規則が強く駄目。しかし医学は、臨床以外にも広い分野をもった世界ですから、その気になれば仕事はあります。が、芸は身を助ける必要はありません。細々の国民年金のお陰で、芸で勝を果たした。グロス八十八、ネット六十四、七アンダーとブツチギリでの優勝であった。第五十八回大会初参加以来、実に二十二回目の参加での優勝であり感激しきりであった。準優勝はベテラン大五回の中西選手、三位には八十三歳本科二十二回の山口選手、第五位に大二回の岡田選手が入賞する等、支部長の優勝に花を添えるベテランの活躍が目立った大会であった。賞金獲得各賞入賞者は下記の通りである。

- 成績
- 優勝…西坂 徹雄(大9) 64(24)
 - 2位…中西 三一(大5) 68(29)
 - 3位…山口 昭夫(本22) 70(40)
 - 4位…田村 寿夫(大12) 70(24)
 - 5位…岡田 巖(大2) 75(27)

西坂支部長念願の優勝
十二月と言うのに穏やかなゴルフ日和に恵まれ、三十三名九組で熱戦が繰り広げられた。
大九回西坂支部長が念願の優勝を果たした。グロス八十八、ネット六十四、七アンダーとブツチギリでの優勝であった。第五十八回大会初参加以来、実に二十二回目の参加での優勝であり感激しきりであった。準優勝はベテラン大五回の中西選手、三位には八十三歳本科二十二回の山口選手、第五位に大二回の岡田選手が入賞する等、支部長の優勝に花を添えるベテランの活躍が目立った大会であった。賞金獲得各賞入賞者は下記の通りである。



第八十三回東京陵水ゴルフ会
平成二十二年十二月三日(金)
金乃台カントリークラブ

7位…北村 徹(大14)75(23)
 10位…小倉 好博(大18)75(18)
 15位…小山捷二郎(大14)77(21)
 20位…小口 晃(大14)79(18)
 25位…竹内 鋭二(大4)83(26)
 30位…蔵田 昭憲(大17)86(15)
 BB賞…日高信次(短9)89(6)
 ベスグロ…名口(大14)85、大
 波…守谷(大12)9打差、水平
 賞…山本(大15)
 ニアピン…中村弘(大14)・名
 口(大14)・中村2(大18)

十五歳を迎えた井口選手がグロス九四、ネット六五と六アンダーで、ブッチギリ優勝を果たした。準優勝は大四回箕島選手、同じく大四回の竹内選手が十位、北川選手が十五位と活躍した。又、八十歳の大一回川本選手がラッキーセブンに入賞する等、ベテランが大活躍であった。第三位に大四回の佐藤選手が入り中堅組の面目を何とか保っていた。



第八十四回東京陵水ゴルフ会
 平成二十三年四月十二日(火)
 金乃台カントリークラブ

驚異の八十五歳！ベテランまた
 また大活躍！

風も無く穏やかな天候に恵まれ、三十二名八組で熱戦が繰り
 広げられた。

第八十回記念大会に続き、八

成績

優勝…井口 博民(本21)65(29)
 2位…箕島 安夫(大4)70(27)
 3位…佐藤 秀孝(大10)70(18)
 4位…中村 嘉秀(大18)70(20)
 5位…吉田 久典(大13)72(15)
 7位…川本 茂(大1)74(40)
 10位…竹内 鋭二(大4)75(26)
 15位…北川 享(大4)78(21)
 20位…松浦 幸作(大8)81(21)
 25位…田中 俊男(大10)84(27)
 30位…坂田 忠彦(大9)88(27)
 BB賞…西澤 正(本24)89(23)
 ベスグロ…小梶(大18)85、大
 波…田中(大10)13打差、水平
 賞…佐藤(大10)
 ニアピン…井口(本21)・山本(孝)
 (大9回)・佐藤(大10)・日高(短
 9)・白井(大14)・富田(大15)・
 中村(嘉)・小梶(大)・中村・
 小梶 山本保 記(大15)

第八十五回東京陵水ゴルフ会
 平成二十三年六月十六日(木)
 金乃台カントリークラブ



念願の初優勝と若手大活躍！

風も無く穏やかな天候に恵まれ、三十四名九組で熱戦が繰り
 広げられた。

自他共に認める実力者、十四
 回名口選手が40/40/80、ネッ
 ト71でベスグロと念願の初優勝
 に輝いた。二位に同じく十四回
 小口選手、三位には十八回中村
 (嘉)選手と久方ぶりに若手が
 巻き返した大会であった。

成績

優勝…名口 幸夫(大14)71(9)
 2位…小口 晃(大14)72(18)
 3位…中村 嘉秀(大18)73(19)
 4位…富田 博司(大15)75(9)
 5位…田川 行雄(大9)76(15)

7位…畠山 義生(大10)77(12)
 10位…田中 俊男(大10)78(27)
 15位…田村 寿夫(大12)80(24)
 20位…佐藤 秀孝(大10)83(15)
 25位…中西 三一(大5)87(20)
 30位…西澤 正(本24)91(23)
 BB賞…川本 茂(大1)95(40)
 ベスグロ…名口(大14)80、大
 波…守谷(大12)10打差、水平
 賞…西坂(大9)
 ニアピン…山本(孝)(大9)・
 三井・田中(大10)・小口・名
 口(大14)・木戸(大16)
 山本保 記(大15)



第八十六回東京陵水ゴルフ会
 平成二十三年九月六日(火)
 金乃台カントリークラブ

松浦選手、念願の初優勝、真新
 しい守谷杯を手に！



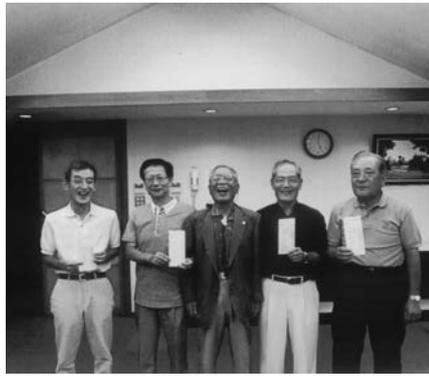
株式会社 金乃台カントリークラブ

代表取締役 戸塚 謙二

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』



山本保：yattax_888@icnet.ne.jp
蔵田昭憲 記（大17）

【新規参加をご希望の方】
氏名・住所・☎番号・生年月日・卒業回・所属ゼミ・クラブ・ハンディキャップを下記メールアドレスにご連絡下さい。Xの次にアンダーバーがあります。

九月二十八日（水）、天気が素晴らしくいい。富士山が全体像を晴天の下に晒している。十一時九分に久木さんと中川さんが到着。十一時二十分宮野さん、平居さん御夫婦の到着。コースと行程時間を、時間が窮屈なため路を急ぐと世話人が伝える。十一時三十分、スタート。ま

松林の中、港口公園では、「出船」、本居長世の作曲作品碑の確認。沼津港大型水門「びゅうお」(view no) に着く。津波対策として建設した日本最大級の水門。地上三十メートルの高さを活かした展望室から、秀麗な姿の富士山を仰ぎ、眼下に沼津市の全景と駿河湾の大海原、壮大な展望を暫く楽しむ。

一日間違えば大変だった全国的に豪雨被害をもたらした台風十二号が過ぎ去り、当に台風一過の晴天の下、三十六名九組で熱戦を繰り広げた。

大八回松浦幸作選手がネット七二で念願の初優勝を果たした。今までも何度か優勝に絡みながらもチャンス逃して来ていた。準優勝は同ネットで大十回田中俊男選手が、また三位には連続ベストクロス八十の大十四回名口幸夫選手が入賞した。若手中堅が活躍する中、ベテランの大二回柴田選手の五位入賞が光った。

- 松浦選手優勝の弁
「今日は一打一打に集中してラウンドした。☆☆選手を目標にして気を抜かなかったのが良かったと思う。……。私は主義としてだからと打つことに
- なる練習はしないことにしている。というのは、緊張感を持ってラウンドする為である。」
賞金獲得各賞入賞者は下記の通りである。
- 成績
- 優勝…松浦 幸作(大8) 72(21)
 - 2位…田中 俊男(大10) 72(27)
 - 3位…名口 幸夫(大14) 74(6)
 - 4位…金井 肇(大14) 75(11)
 - 5位…柴田 茂夫(大2) 76(21)
 - 6位…田川 行雄(大9) 76(15)
 - 10位…富田 博司(大15) 79(9)
 - 16位…滋野 輝彦(大17) 80(15)
 - 20位…中村 弘(大14) 82(19)
 - 26位…小梶 清司(大18) 85(9)
 - 30位…山本 孝之(大9) 87(15)
 - BB賞…古山捷二郎(大14) 95(21)
 - ベスグロ…名口(大14) 80、大波…箕島(大4) 19打差、水平賞…中西(大5)
 - ニアピン…守谷(大12)・名口(大14)・蔵田(大17)・宮武(大20)

「富士と海と史跡の街」沼津
還沿いで最も賑わった場所と言われる本町。道沿いにある本陣、脇本陣の石碑を眺めながら浅間神社へ。ここには延喜式内社で嘗ては大きな社であった丸子神社が合祀にされている。旧東海道の交差点を渡ると、南側に庭園が整理された浄運寺。本堂の姿が良い。この寺は戦国時代に荒廃した千本松原を復元した増誉上人、若山牧水夫婦、その長男



松林の中、港口公園では、「出船」、本居長世の作曲作品碑の確認。沼津港大型水門「びゅうお」(view no) に着く。津波対策として建設した日本最大級の水門。地上三十メートルの高さを活かした展望室から、秀麗な姿の富士山を仰ぎ、眼下に沼津市の全景と駿河湾の大海原、壮大な展望を暫く楽しむ。

漁業の街と思っていた。陽光燦爛として、狩野川の大蛇行した流れやあゆみ橋からの香貫山の稜線が美しい。橋の脇から降りて船着き場を辿り、旧東海道の一部、川郭通りを歩いて御成橋の袂に出る。御成橋を御用邸との関係、町の歴史に沿って眺める。ビル街に井上靖「夏草冬濤」の碑を発見。他にも井上文学ゆかりの場所が多い。沼津宿当時は東海道の往

還沿いで最も賑わった場所と言われる本町。道沿いにある本陣、脇本陣の石碑を眺めながら浅間神社へ。ここには延喜式内社で嘗ては大きな社であった丸子神社が合祀にされている。旧東海道

の水門。地上三十メートルの高さを活かした展望室から、秀麗な姿の富士山を仰ぎ、眼下に沼津市の全景と駿河湾の大海原、壮大な展望を暫く楽しむ。

きの焼き魚定食」が好評。狩野川が海に最も近い港大橋を渡り、バスで芹沢光治良記念館に向かう。館長さんが、親切に対応してくれた。二時五十五分頃同館を辞去。海岸通りに出て伊豆の海の景色を堪能しつつも御用邸へ急ぐ。予定の午後三時到着（閉廷時間午後四時半）にやや遅れ、予約していた御用邸がイド鈴木さんの気をもませてしまふ。

平成二十三年散歩会開催記録

●九月二十八日（水）
沼津街歩き（別記）。参加者六名。

●一月二十五日（水）
コース…北品川駅～品川宿本陣

●十月二十六日（水）
コース…阿佐ヶ谷駅～神明社

跡～法禅寺～正徳寺～荏原神社
品川寺～海運寺～鈴が森刑場
跡～大森貝塚～大森駅。参加者十名。

●二月二十五日（金）
コース…都立大学駅～呑川沿道

●十一月二十四日（木）
コース…高尾山登山

～東工大～池上梅園～池上本門寺～池上駅。参加者七名。

●四月五日（火）
コース…浜田山駅～神田川沿道

●十二月二十一日（水）
コース…東京駅から皇居東御苑、北の丸公園経由新宿の予定

過去がある。沼津御用邸は明治二十六年造営、明治、大正、昭和の三代に亘り使われ、昭和十四年に廃止され記念公園となつて美しい庭園や皇室の権威を感じて邸が公開された。西付属邸の皇室使用の内部を係員が案内してくれた。建物の他家具調度品も展示されている。西付属邸の庭園はガイド鈴木さんが植生樹木、景観、付帯設備、更に東付属邸に移る途中の茶室や周りの庭園の美しさを丁寧に説明。東付属邸では内部を係員が文化活動の施設であることも併せて細かく説明してくれた。御用邸前のバス停を午後五時過ぎに出発。沼津駅前まで打ち上げ開催。六時半の電車で沼津に別れを告げた。 林史欣（大8）記

コース…池上梅園～池上本門寺～池上駅。参加者七名。

コース…高尾山登山

●五月十七日（火）
コース…池袋東口駅前～法明寺

●十一月二十一日（水）
コース…東京駅から皇居東御苑、北の丸公園経由新宿の予定

コース…駒込駅～六義園～吉祥寺～白山神社～鷗外記念館～根津神社～御徒町駅。参加者六名

●七月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

コース…新座市総合公園～史跡公園～用水遊歩道～清瀬駅。参加者七名

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●六月二十三日（木）
コース…駒込駅～六義園～吉祥寺～白山神社～鷗外記念館～根津神社～御徒町駅。参加者六名

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●七月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●八月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●九月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●十月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●十一月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●十二月二十五日（木）
コース…新座駅～野火止用水

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●一月二十五日（水）
コース…北品川駅～品川宿本陣

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

●二月二十五日（金）
コース…都立大学駅～呑川沿道

●十一月十九日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービスマス厚生年金基金会において開催しました。当日は雨天でしたが、十七名の参加者により、四回戦の熱戦が行われました。五段以上をAグループ、五段未満をBグループと二組に分けて実施しまし

だが、各組の入賞者は次の通りです。

A組
優勝 水引芳雄 六・五段(大2)

二位 中澤 龍彦 七段(大10)

三位 鈴木 克治 七段(大14)

五位 島山 義生 七段(大10)

七位 森本 忠徳 五段(大9)

B組
優勝 小原 捷治 二段(大12)

二位 小林 仁美 初段(大6)

三位 大谷毅丈夫 五段(大6)

五位 細井 恭一 二段(大5)

七位 小口 晃 三級(大14)

入賞者以外の出席者は新宮毅(大2)、神崎栄治(大3)、天田志郎(大5)、青島弘(大5)、大久保義雄(大6)、刀裨館信雄(大8)、三井照次(大10)の各氏でした。大会終了後は恒例の懇親会で談笑と歓談が出来るました。

次回の開催は平成十二年六月第三土曜日、東京築地の全国情報サービスマス厚生年金基金会(電・03-3546-1515)において。

○囲碁会の運営と年間行事
①毎月第三土曜日一〇時から通常の対局を実施。

②希望者により棋楽会と呼ぶ持ち点制によるリーグ戦を上期、下期実施。

③元プロ棋士による指導碁(右記①②③は第三土曜日に前述の年金基金会館で開催。)

④年間二回の囲碁大会実施(六月と十一月第三土曜日を予定)

⑤年に一回陵水会三地区(東京・大阪・名古屋) 対抗戦への参加。行事に参加する時以外会費はありません。現在の会員数は二十八名です。最近各地でリタイアされた方々の囲碁が盛況です。多数皆様のご入会をお待ちしております。

東京陵水会囲碁会便り

大学十八回同期会の開催

中村 嘉 秀 (大18)

大学十八回同期会を四月十八日、東京駅八重洲北口「ニュートーキョー」句さがみにて開催しました。東京支部総会の当番幹事を契機として、同期会を六人で開催してから六年経ちました。同期生の数も今年で四十九名になりました。

毎年四月十八日に開催しています。東日本震災後の会合であったので心配しましたが、今年も十五名の懐かしい顔ぶれが集まりました。近況報告を一人ずつ行いました。一巡する頃には程よくお酒も廻り、四十余年前の彦根某所での酒宴と同じ状況

が再現されていました。機会があれば同期で会おうということから、ゴルフ、ハイキング、昼食会等の色んなアイデアが出て、今後は益々楽しい同期会になりそうです。



同期会参加者は以下の通り。
(敬称略)

今津松雄、岡田憲治、小倉好博、影山哲也、兼松泰男、喜田峰幸、栗原喜代次、小梶清司、新戸基次※、田中和夫、徳山秀雄、中村嘉秀、直井一博※、林良幸※、吉村政彦。

※印は初参加。四十余年振り再会です。

東京五陵会

「紅葉の水温泉一泊と

天神平散策」

細井 恭一(大5)

十月二十七日(木)、晴れ。上野駅発十二時特急草津五号に乗車、高崎駅にて乗り換え、水上駅着十四時三十七分。宿差し回しの車にて宿泊先の水上館に到着。早速持物を宿において温泉街を散策するも、途中の利根川にかけられた吊り橋が腐食して居て危険であるとの判断。已む無く引き返す。水上の温泉街は、利根川の源流に近い渓谷に沿ってある細長い町である。我々の宿泊する水上館もまた利根川の源流が眼下に流れる水辺に沿って建てられた大きな宿であるが、三棟が細長く連なっていて当初の建築棟から順次、増築していったのだろう。(しかも渓谷の畔だから地盤が傾斜している)。その為、各棟が繋がってはいるものの、それぞれの棟の階数が一致しない。例えば第一棟目の七階が第二棟目の四階に繋がって居る如しである。従って慣れない私共には昇ったり降りたり、一種の迷路のようなものだった。居ながらにして良い運動になったが。早速温泉に浸る。無色透明の風呂で館内にはいくつもの異なる種類の風呂があるようだが、いずれも宿の最下階にあって、風呂のすぐ眼下を谷側が流

れている(小さな滝もある)といった趣向である。谷川と言っても水量は豊富で轟々と音をたてて流れている。ひと風呂浴びさっぱりしたところで宴会である。呑むほどに酔うほどに、政治、経済や健康談議で盛り上がり、お酒もすすんだ。翌朝の九時出発。宿の車で水上駅前まで。次いでバスに乗り換え、谷川岳ロープウェイの土合口駅(標高七四六米)へ。ロープウェイにて約十分、天神平駅に着き、そこでペアリフトに乗り換える。約七分で天神峠に着く(一五二〇米)。土合駅付近では、まだ紅葉もごく一部で始まったばかりであったが、ロープウェイで昇ってゆくと紅葉の深まりが徐々に変わっていくさまを見ることができとても面白かった。天神平付近では今が盛りの見ごろで、紅葉パラダイスと言うところ。ペアリフトを



下りた天神峠付近はほとんど樹木が無く、山の大草原と言ったところであった。昨夜僅かながら積雪があったよう、雪解けの為、地面はぬかるんでいた。快晴のなか、我々は展望台に上り、其の眺望を楽しんだ。その眺めは三百六十度の大パノラマ。遠くの山々、近くの山々、はるか眼下の谷間の小屋等々。雄大、豪華な美観等が適切な言葉で表すことが出来ない素晴らしい眺めであった。我々はパノラマを充分堪能し、近くのレストランにて昼食を摂った。再びロープウェイにて下山。水上駅へ。約一時間の待ち時間があるので、一同駅前の喫茶店に入った。ところがこの店の御主人は面白い人で、スチールギターの名手でもある。我々の年齢を見抜いたのか、我々に相応しい懐メロを何曲も演奏してくれ、我々一同もそれに合わせて唄い続けた。まったく思わぬ拾いものをしたようで、旅行の最後を楽しく締めてくれた。二日間快晴にめぐまれ、本当に楽しい旅であった。

参加者・青島 天田 市木 岡田 龍口 中川 中西 樋上 久木 細井 間宮 計十一名

ご宴会・ご婚礼・出張料理
カフェランランドーレ・グリルフクシマ



五野精養軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330
<http://www.seiyoken.co.jp> 年末年始以外年中無休



エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付
保守サービス、モダンゼーションに関する全業務



守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881
営業本部 〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-40 銀洋ビル4階 TEL(045)322-3111 FAX(045)322-9486
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-6-1 協栄ビル7F TEL(03)5542-2700 FAX(03)3297-7400

大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋出張所 札幌出張所

駐車場の総合コンサルティング



日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード 2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川村 憲 司(大37回)

東京・築地市場近くの本格串あげとワインのお店

串あげ 花村

〒104-0045 東京都中央区築地2-14-1 新井ビル1F 電話 03-3545-8765

オーナー 川村憲司(大37回)

発行所
〒236-0004
横浜市金沢区福浦1-14-9
守谷輸送機工業(株内)
陵水会東京支部 支部長 守谷貞夫
電話045(785) 3716
印刷所
〒110-0015
東京都台東区東上野1-28-3
船舶印刷(株)
電話03(3831) 4181

林 史欣(大8回)
〒164-0014
中野区南台二一五一〇
(TEL・FAXとも)
〇三―三三八―四四三一
※編集室のメールアドレスは
hysckys@nifty.com
(次号分メ切日十月末日)

「会報」原稿・情報「送付先

陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~iyousuit/>